宇佐神宮の神職による舞楽「蘭陵王」　園田　健治（大14）

四極

No.125
（令和５年４月）
大分市金池町 2-7-21
パークサイド大分駅まえ 302号
一般財団法人
四　極　会
TEL 097 (538) 2462
FAX 097 (529) 6623

四極会 HP

縦・横・隣の連携が重要

（関西四極会会長）
和田　安生

令和４年10月の関西四極会総会で会長に選任いただきました和田安生です。新型コロナ発生以来丸３年経過しました。最近は社会生活や経済活動を回す為にかなり元のようになりつつありますが、校歌・寮歌・逍遙歌を思う存分に高歌放吟できるまでにはもう少しかかりそうです。

その中で昨年は「大分大学経済学部創立１００周年記念式典」が無事に開催されました。誠に慶賀の至りです。黒土記念講堂や、旧上野丘キャンパスの正門レプリカ等々関係者のご努力で素晴らしいモニュメントが出来上がりました。今後帰省する際に訪れるのが楽しみです。（式典出席はコロナ下で自粛しました）

さて、大分大学経済学部と四極会は車の両輪のように、揃って発展していかねばならないと思います。長い人生の中で大学生活は僅か数年ですが、それから先に数十年の年月があります。

大分大学経済学部そのものは統廃合されない限り、１５０年、２００年と今後も存続するでしょう。しかし四極会は必ずしもそうとは限りません。若い人に加入してもらわねば尻すぼみになっていきます。どの支部でも同じ悩みを抱えていると思いますが、会員増のためにも四極会の活性化を一層進める必要があり、その為にも縦・横・隣の連携が重要であると感じます。

（縦）旦野原世代の人数は上野丘世代をはるかに上回っています。しかし関西支部を見ましても若い方の出席率は非常に低く、この世代への働きかけが急務となっています。

（横）従来各支部と本部との連携はありましたが、支部間の連携はあまり無かったと思います。同規模の支部や近隣の支部などが情報交換をより密にして、お互いの長所を参考にしあう事も良いと思います。

（隣）旦野原世代の人は、教育学部や工学部の人とキャンパスライフやクラブ活動を共にしており、親近感があるでしょう。各同窓会の連合会を活発化し、ひいては四極会活動の活性化に結びつけられないでしょうか。

将来に繋げるためにも、まずできるところから地道に実行しようと思っています。

個人的な話で恐縮ですが、四極会と私の関係は父の存在を抜きには語れません。父も四極会会員でした。（和田幹雄、経専23回、大分大学名誉教授、同経済学部教授、平成５年没、享年66才）

人一倍四極会活動に熱心だった父の背中を見てきた私としましても、今後より一層四極会活動を行ってまいる所存です。

（大学24回）

大島事務局長と支部を廻る

三浦会長がフル回転

昨年６月に「四極会」会長に就任し、早10カ月が経とうとしています。

先ずは、各支部への訪問を行うことが、新任会長の最初の仕事と考え、出来るだけ早い時期にと、支部への訪問を開始しました。会長就任のご挨拶を兼ねて、各支部長・支部役員に直接お会いさせていただくもので、支部訪問の主な目的は

①新任会長の顔を覚えて頂くこと

②経済学部創立１００年記念事業に対する協力御礼を伝えること

③四極会会長としての「思い」を伝えること

④四極会全体に関する支部長や支部役員との意見交換をさせていただくこと

⑤支部の現状や課題・運営等について率直なご意見をいただくこと

としています。私は、現役（銀行員）時代、大半、営業畑を歩んできました。「動く」ことには何の抵抗感はありません。「先ずは先方と会ってみること」を重視する思いがあったからかも知れません。

今回の支部訪問には、１００周年実行委員長の野々下俊昭先輩（大12回）、令和４年10月から新たに四極会事務局長に就任した大島英明君（大24回）の随行をいただきました。野々下委員長は、１００周年事業に対する協力の御礼を伝えること、大島事務局長は新任のご挨拶を兼ねてです。

関西四極会の総会で
加藤さん（右から２番目）と一緒に。
その隣りは高見経済学部長（2022年９月）

支部長の皆さまには、折角の機会を設けていただけるということなので、コロナ禍ではありましたが、特に、県外支部においては２年～３年ぶりの支部総会の開催を併せてお願いを致しました。また、支部長・支部役員との面談では、総会の会食後に実施しようとすれば実質の意見交換が出来ないと考え、出来る限り、総会の前の１時間程度を確保いただきました。総会の

100周年記念募金活動から窺える「四極会の課題」

〈資料1〉

募金者数（名）			募金金額（単位千円）		
目標総数	11,323		目標金額	113,230	
募金者数	3,154	27.9%	募金金額	69,040	61.0%
高商・経専 大学30回まで	2,125	67.4%	高商・経専 大学30回まで	45,969	66.6%

課題　募金者数は３割未満で会員の関心度合いが低い
高齢会員が７割近くを占め、将来が危惧される

大分大学支部で話を聞く三浦会長（右から２番目）

ない支部については、わざわざ支部役員が集まる場を、別途、設けていただきました。

令和５年２月末現在、支部訪問については、令和４年10月２日の関西四極会を皮切りに、県外支部（活動している支部）20支部中８支部、県内支部11支部中全11支部、職域支部７支部中全７支部、計38支部中26支部の訪問を実施しました。

面談の中で、本部からは、創立１００周年にあたり最大の目的は「四極会の組織強化」にあることを伝え、〈資料１〉に示しているように、募金活動から窺える「四極会の課題」を提示したうえで、支部の運営課題や組織の活性化策について議論を行いました。併せて、本部の新体制と１００周年募金による「基金創設の検討委員会」の設置等について報告を行っています。議論をいただいた支部長・支部役員の皆さんには、様々な貴重なご意見を頂きました。頂いたご意見は基金創設検討委員会のご意見と合わせて、〈資料２〉の『四極会』の活性化に向けたチャート図」に示してみました。ご参考にして頂ければと思います。

残る県外支部12支部についても、オンライン会議（Ｚｏｏｍ会議）等を利用して意見交換を実施していきたいと思っています。また、今年４月からは、新型コロナウイルス感染症の対応も相当に緩和することになりそうです。各支部に置かれましては、組織活性化のために、是非、対面での支部総会の開催をお願いしたいものです。その際は本部として出来る限り参加させて頂きます。コロナ禍を乗り越えた支部総会の開催のご連絡と支部活動の再開をお待ちしております。

学生への支援を通じて地域貢献を図る
大分大経済学部同窓会「四極会」会長
三浦　洋一さん（69）

ひと　魅力発信し強固な組織に

前身の大分高等商業学校が1922年に開校し、大分大経済学部は今年、創立100周年を迎えた。これまで2万人以上の卒業生が社会に出て、地域発展の担い手として寄与してきた。「歴史の重みを感じて誇らしく、うれしく思う。伝統を築いた先輩に敬意を表するとともに、後輩たちには新たな歴史を紡いでほしい」

四極会は全国に4支部があり、約1万1千人が在籍。会員同士の交流を促進するのをはじめ、在校生の学業を物心両面で支える。

会自体も3年後は設立100周年の節目に当たる。「学部が知の拠点として地域に貢献できるようサポートする。同窓生の関係を密にする会の魅力を発信し、強固な組織としたい」と強調した。

豊後大野市三重町出身。小売業を営む両親の影響もあり、72年に同学部へ進学した。卒業後は大分銀行に入行。副頭取やグループ会社の大分カード社長を歴任した。

退職後の2020年4月、大分大に採用された。学長補佐を務め、県内の産官学でつくる「おおいた地域連携プラットフォーム」で事務局長を兼務。地域課題を解決し、活性化を主導する。四極会の会長には今年6月に就任した。

健康維持のため、ゴルフや硬式テニスで汗を流す。子ども3人は独立し、大分市内で妻と2人暮らし。3人の孫と会うのを何よりの楽しみにしている。（指原祐輔）

令和４年 11月３日の大分合同新聞の
朝刊に連載された「ひと」欄

松山支部で二宮章治部長（右端）
幸地慎一氏と協議する三浦会長（左から二番目）

竹田市役所では、土居昌弘市長（右から二番目）
を訪問して豊肥支部の活性化を話し合う

『四極会の活性化に向けたチャート図』

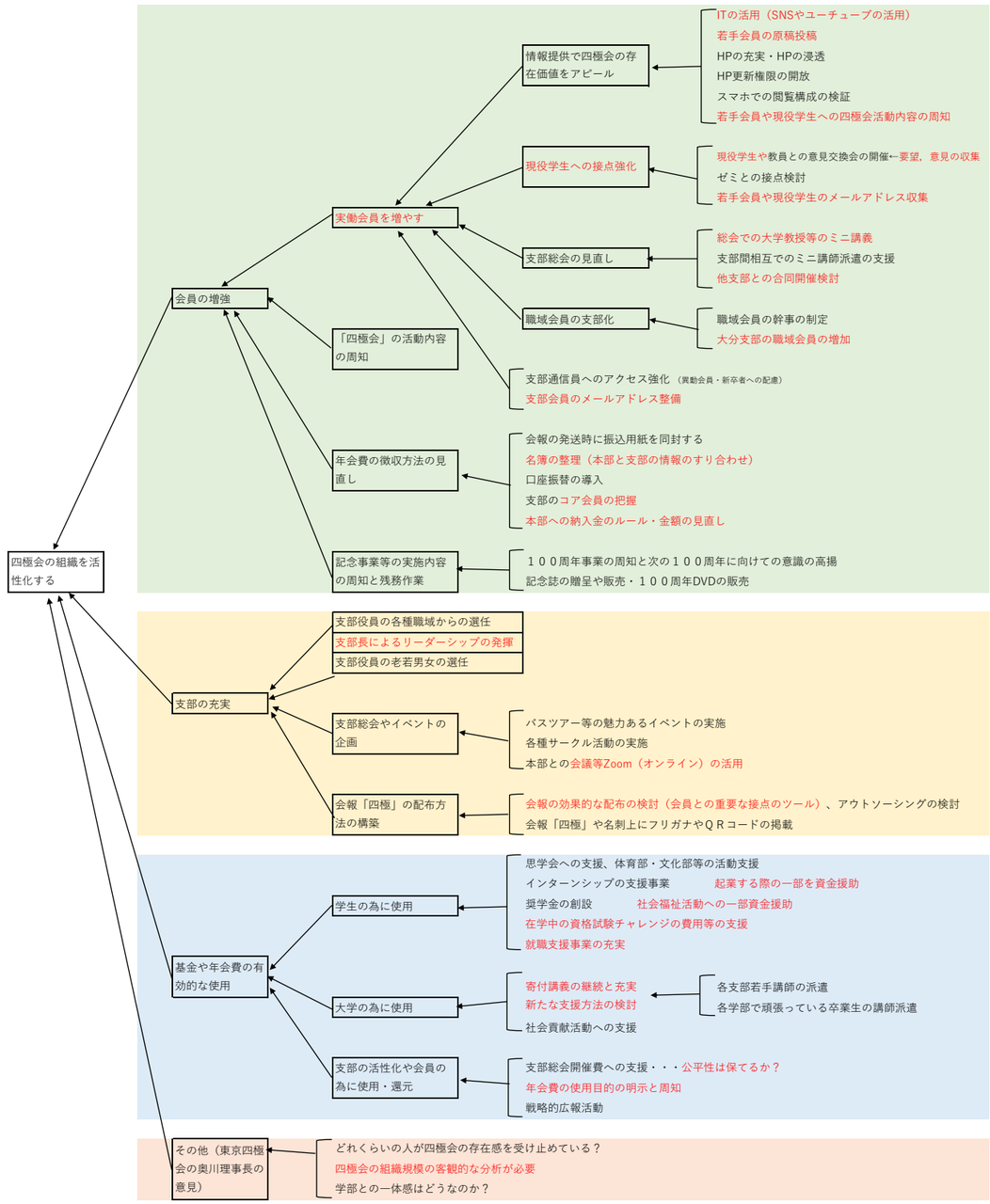
（R5. ３月末現在）

①100周年記念募金基金創設委員会での意見集約
②支部長・支部役員との交換会での意見集約
③その他意見

※赤字表記は重要政策

〈 資料2 〉

四極会の組織を活性化する



経済学部100年の足跡を残して

記念事業実行委員会が一区切り

経済学部創立１００周年を取り仕切ってきた実行委員会は、令和５年３月末で一応の区切りを付けました。平成29年にスタートした実行委員会は、野々下俊昭氏（大12）を委員長に選任、経済学部と四極会双方から20人以上の委員が選ばれました。

実行委員会には４つの小委員会が結成され、委員長を支えていきました。

100周年記念事業実行委員会に加わった人たち

①１００周年記念式典小委員会
②記念事業小委員会
③記念募金推進小委員会
④広報小委員会

１００周年記念式典は、令和４年６月25日と決まった。さて、記念事業として、どんなことをするのか。実行委員会が何度も開かれ意見を出し合った。その中で、記念事業として、次のようなことが実施されました。

①黒土記念講堂の整備
②１００周年記念公園の整備
③１００周年記念碑の建立と旧高商正門レプリカの設置
④経済トップセミナーの開催
⑤安部龍太郎氏の記念講演会
⑥ホームページの刷新
⑦母校訪問ツアーの実施
⑧観光ツアーとゴルフ大会
⑨会員による自遊展の開催

ほかにも数項目が取り上げられたが、主なものを紹介します。何といっても最大の目玉は、経済トップセミナーの開催でした。

会場は大分駅南側のＪＲＣＯＭホルトホール大分でした。

①広瀬勝貞大分県知事
②白川方明前日本銀行総裁
③サッポロビール㈱代表取締役社長の野瀬裕之氏
④九州電力㈱代表取締役社長執行役員の池辺和弘氏
⑤九州旅客鉄道㈱代表取締役会長執行役員の青柳俊彦氏

以上の５氏による講演会が大々的に開催されました。５氏は、それぞれ大分県と関係が深く、みなさんがよくご存知の方ばかりで会場はいつも盛況でした。

また、黒土記念講堂は、北九州の第一交通産業株式会社を起こされた大分大学名誉博士で、代表取締役創業者会長の黒土始氏の支援により実現できたものです。

この記念講堂は、通常の学部内の授業以外にも、大学入学共通テスト、外部の資格試験や就職試験会場などとして、学外の方にも提供して、広く開かれた大学施設として地域社会にも貢献しています。

次は四極会が１００周年

母校訪問や観光ツアー、ゴルフ大会にも多くの四極会会員の皆さんが参加してくれました。

そうです。次は私たちの四極会が、２年後の令和７年に１００周年を迎えるのです。三浦洋一会長は、四極会１００周年を見据えて組織の強化に懸命に取り組んでいます。すでに県内外の支部のほとんどを訪問しました。

今後は、女性会員の参加、支部役員の若手登用、中核支部のブロック制の導入などを検討課題に全世代の協力を呼び掛けています。野々下委員長も、実行委員会での経験を生かして組織強化に全力で協力していく覚悟を示しています。

実行委員会としては、次の３点について、４つの小委員会に、これまでの事業をまとめていただいて、次の世代に引き継ぐことにしています。

・小委員会として出来たこと
・出来なかったことは何か
・今後取り組んだらよいこと

さあ皆で四極会１００周年を成功させましょう。

石川 公一さん
８年間ご苦労さま

経済学部創立１００周年記念事業、記念式典が終了し、早や10か月が過ぎました。石川公一前四極会会長に、８年間のご苦労を聞きました。

・まずこの８年間を振り返って

四極会会長は、平成26年７月に相良浩会長から引き継いで、令和４年６月まで８年間勤めました。その間、昨年は、ちょうど母校経済学部創立１００周年の節目に当たりました。

支えてくれた本部事務局、各支部の先輩、後輩の会員の皆さんには感謝しかありません。大変ご苦労様でした。本当にありがとうございました。

・最初に手掛けたのは？

令和４年の経済学部創立１００周年をにらんだ、学内における同窓会活動の活発化、気運の醸成でした。

実は、平成22年４月に就任した大分大学監事（業務監査担当）の任期が平成26年３月に満了し、同年７月から四極会会長に、同年10月から大分大学理事（法務、コンプライアンス担当）に就任し、大学運営に関わることとなって以来、１００周年に向けた一助にもと、学内の雰囲気づくり、機運を盛り上げるため、平成27年４月１日には「大分大学同窓会連合会」を設立し、各学部の６つ（現在は７つ）の同窓会をも巻き込み、学内における同窓会活動の活性化、関係教職員、同窓会員などの同窓会に対する意識付けを図るよう努めてきました。

・１００周年への段取りは？

１００周年を迎える主体は経済学部という基本認識のもとに経済学部と四極会が共同で「実行委員会」を設置しました。

１００周年記念事業実行委員会には、下部組織として四つの小委員会を設け、責任を分担することとしました。

しかし、あくまでも、１００周年を迎える主体は経済学部であり、本来、経済学部の教員が中心となって同窓会である四極会の協力の下、四極会と適切な役割分担をして記念事業を推進すべきは当然のことであります。

このため、四つの小委員会のうち、式典小委員会、記念事業小委員会は経済学部の教員が責任者となり、四極会としては金融界出身の玉井理事、マスコミ出身の帆足理事がそれぞれ募金小委員会委員長、広報小委員会委員長に就任し、そのキャリアを最大限生かして、１億５,１００万円超（目標額１億３,０００万円）の募金を達成し、また、本年３月には「大分大学経済学部創立１００周年記念誌」を刊行しました。

・そのほか、特に感じたことを教えてください。

１００周年記念事業の実施、１００周年記念式典の挙行に向けた８年間を振り返って、感じたことは四極会として分担した募金小委員会、広報小委員会の活動に当たり、それぞれ委員長の重責に当たられた玉井理事、帆足理事が、関係する企業や会員に対する記念募金の働きかけ、大分合同新聞紙上における取材記事の掲載、記念事業の広告等や、記念誌の発刊に関する資料の収集や寄稿の依頼など、その職務を本当に熱心に、なお、的確かつ円滑に行っていただきました。

しかし、四極会関係者が強く感じたのは、現在の経済学部の教員が、常日頃大分県の経済界との接点が少なく、往時とは異なり、大分県の地域経済社会における経済学部の〝存在感〟があまりにも希薄であるということでした。もっと経済学部の存在、教員の実績をアピールすべきだと思います。

・１００周年記念事業の実施、記念式典の挙行に込めた想いとは。

１００周年記念事業の実施については、経済学部の学生や教員、四極会の会員の皆さんに、創立１００周年を明確に意識していただくきっかけとなり、その歴史と誇りを目に見える形で、今後とも引き続き持ち続けることができる、何らかの事業ができないか！？と、四極会会長に就任して以来、私自身、随分と悩んでいました。

今となっては、まさに天佑としか言いようがありませんが、その最も大きな、また、経済学部としても学生のために、かねてより望まれていた記念事業は、令和元年５月28日西日本新聞の記事を読まれ、〝母校経済学部における学生の起業などの状況はどうなっているのか？〟と、黒土 始 第一交通産業株式会社代表取締役創業者会長（現 相談役）からの、私に対する一本の電話から始まりました。

その後、この一本の電話が〝黒土始記念講堂〟の設置（２０２号教室の改修）として結実し、母校創立１００年の歴史と伝統を、まさに目に見える形で、現役の、そしてこれからの学生たちや四極会の会員に語り継ぐべき〝モニュメント〟となりました。

なお、もちろん、創立１００周年記念誌の編纂、記念ＤＶＤの作製、ホームページのリニューアル・オープンや記念碑の建立など、創立１００周年の歴史と伝統を後世に伝えるために、目に見える形での記念事業の実施については、ご案内のとおり、会員の皆さん方などのご協力・ご支援により、全て当初の計画どおり実施することができました。

記念式典挙行の意義については、記念式典で私が四極会会長〝挨拶〟の中で言及したことに尽きると考えています。即ち、これまでの１００年の〝総括〟、これからの１００年の〝展望〟という歴史的転換点に立って、大分の地における「知の拠点」として、これまで、小さくとも、いわば「キラリと、光り輝く」存在であった経済学部が、これからも、地域経済社会の中において「キラリと、光り輝く」存在であって欲しいと願い、四極会としても、会員相互の絆をより一層強固なものとし、今後とも、母校経済学部に対し、心からなる協力、支援を！という経済学部、四極会の今後の在り方に関し、教員や会員などが改めて認識し、確認する直接の縁（よすが）となったのが、１００周年記念式典ではなかったかと考えています。

・さらに付け加えることはありますか。

創立１００周年記念事業、１００周年記念式典は、全て決して〝一過性の事業〟、〝一過性の式典〟にしてはならない！という強い想いをもって実施しました。

特に、若年会員、女性会員、大分県経済界、ひいては１１１万人の大分県民に対し、もっとも、その前に、一番肝心な現在の教員、現役の学生に対し、大分高商、大分経専そして大分大学経済学部と、連綿として受け継がれてきた〝建学の精神〟を改めて認識していただく良い機会になったと考えています。

・石川さんは全国の支部を丹念に廻って声を聞いてきました。各支部の中には消えゆくところもあると伺っています。支部の皆さんに一言。

まず、支部会員の高齢化、四極会活動に無関心な若年会員や女性会員の増加など、支部運営をめぐる様々な問題がある中、これまで支部運営に尽力されている各支部長さん方に、心から感謝申し上げます。

四極会会長として、コロナ前は、毎年、全国各地の支部総会などにお伺いしてご意見を聴かせていただき、また、特に、１００周年記念事業実行委員会の立ち上げ直前には、直接訪問してご意見をいただいた大分県内の各支部の皆さん方、多大なご協力をいただいた全国の支部の皆さん方の想いあるいは私なりに感じ、思ったことを、私の立場で、これからの四極会の運営にもきちんと生かせるよう、今後とも、適宜、適切に助言等できるよう努めてまいります。

今後とも、支部の統廃合、支部活動の充実・強化に当たっては、基本的には、何よりも支部長一人一人のリーダーシップの確立が大きな課題であると実感しています。

これからは、若年会員や女性会員の無関心など、各支部の組織、運営上の問題点を解決するために、例えば、卒業年次別の幹事を配置し、支部の理事にするなど、みんなで知恵を出し合う、いわば集団運営体制で、かつ、メールや今風にはＳＮＳなどで働きかけをするなど新しい方法による支部の運営についても積極的に考えていただきたいと思っています。

・〝２０１８年〟問題や加速する四極会離れで、四極会の「存立」が危うい、という声も聞かれますが、いかがですか。

「２０１８年」問題とは、今年は２０２３年ですが、我が国においては既に２０１８年以降、長期にわたる18歳人口の減少傾向の始まりをいうとされています。

「２０１８年」問題は、将来にわたって大学の志願者、入学者の減少をもたらし、今後の国公立、私立を問わず、大学の存立、運営に大きな影響を及ぼすことになると考えられます。

実際に、今年度３月に実施した、令和５年前期入試の志願倍率は１・98倍と、初めて２倍を切りました。経済学部としても、もっと、危機感を持つべきではないかと思うのは、私一人でしょうか？

上野丘世代、旦野原世代という世代間のちがいを超えて、なお、毎年40％を超える女性会員の増嵩も踏まえ、いま、四極会会員は、「なに」を思い、どのように行動すべきでしょうか？

このままでは、会員の高齢化、無関心がどんどん進み、なお、同窓会活動に参加することにいろいろな困難が伴う女子会員もいます。いまや〝四極会の運営が危ない、四極会が消えていく〟という基本認識、危機意識をみんなで共有することが不可欠となるのではないでしょうか。

・最後に経済学部との関係について聞かせてください。

（四極会と）母校経済学部との関係をどうするか？を論じる前に、急激な少子化の進行により、統廃合が進み、かつて89あった国立大学法人が、いまや全国で82になっているという状況を直視し、就中、地方国立大学、経済学部創立の「原点」に立ち返って考える必要があるのではないか、〝消えゆく地方国立大学〟に明日はあるのか！ということです。

経済学部としてこの問題についてどう考えているのか？是非、機会を設けて経済学部の教員の方々からも、ご意見をいただき、四極会とも危機感を共有することが必要ではないかと思います。

（〝消えゆく地方国立大学〟に明日はあるのか！〝改革なき大学〟に明日はない！）

１００周年記念誌を出版

経済学部と四極会が共同で

経済学部１００周年ということで、記念誌を出版することになり、広報小委員会が担当しました。

経済学部からは、城戸照子教授、鵜崎清貴教授、渡邊博子教授、仲本大輔准教授、それに伊井智文事務長。

四極会からは、髙井道晴前大分支部長、髙野浩子大分支部長、帆足三郎四極編集長が担当。四極会事務局の大島英明事務局長、柴田宏二会長補佐、是永弘実次長、荒川孝二前事務局長、高橋秀武前次長、大園広子主任も加わりました。

平成29年に１００周年記念事業実行委員会が立ち上がり、４つの小委員会が設けられ、それぞれの目標に向かって知恵を出し合いました。

広報小委員会では、記念誌出版にあたって、何回も会合を重ね、一つ一つ積み上げていきました。

「経済学部 １００年の歩み」は、城戸先生の労作。大分高商、大分経専、経済学部への流れを読みやすくまとめてくれました。

併用の写真などは、鵜崎先生、仲本先生、伊井事務長が骨を折ってくれました。

四極会ＯＢと学生との座談会は、渡邊先生が書いてくれました。第３部の経済トップセミナーのまとめも渡邊先生です。

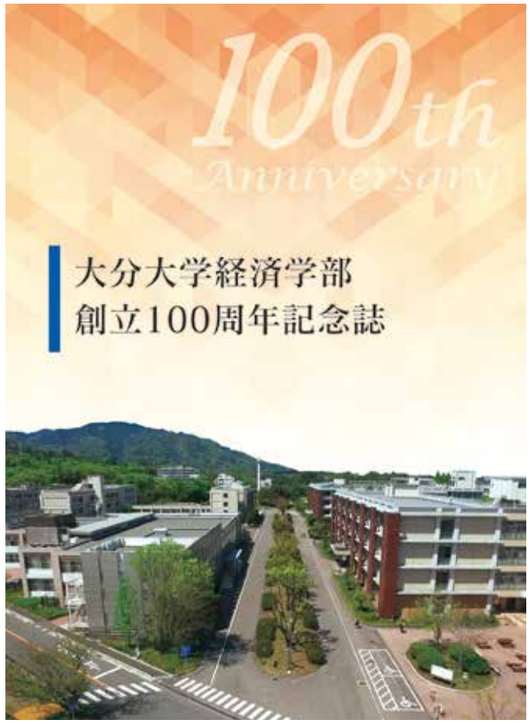
「四極会の１００年」は、髙井氏が腕を振るってくれました。過去の資料を一つ一つ丁寧に読み解き、時間をかけてまとめました。髙井氏には、全体の写真についてもお世話になりました。

歴代の学長、学部長の写真は伊井事務長が揃えてくれました。

原稿の執筆については、経済学部の学部長経験者、四極会会員の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

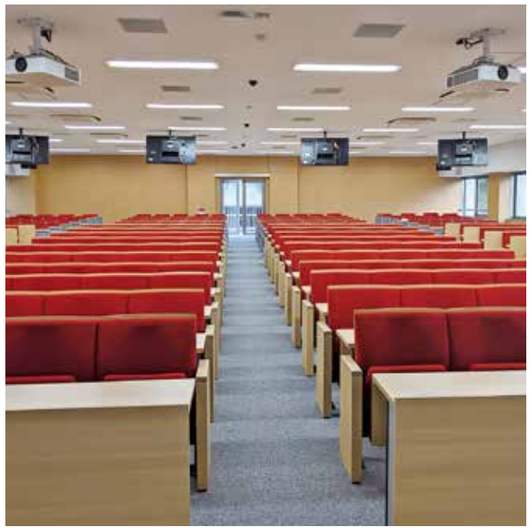
最後に、すべてにわたって、面倒を見ていただいた四極会事務局の皆さんにも心から感謝申し上げます。

（帆足　三郎）



出版された 100 周年記念誌

東京四極会が寄贈の 100 周年記念碑


立派になった黒土記念講堂

記念誌購入の希望者募集

記念誌は、経済学部と四極会の共同出版です。歴代の学部長や四極会会長の写真も含めて、極めて貴重な資料がそろっています。

かつての上野丘キャンパスの様子や懐かしい場面が出てきます。ぜひ手に取ってみてください。一部３０００円となっています。お申し込みは四極会事務局まで。

３年ぶりの総会に興奮

支部だより

関西四極会45人が出席

２０２２年度関西四極会総会は、令和４年10月２日（日）大阪ガーデンパレスにて開催された。新型コロナ流行の影響で会員の出席者数は以前に比べ減少したが、総勢45名の出席のもと、感染症対策を十分に行ったうえで、３年半ぶりの開催となった。

最初に記念写真撮影を行った後、司会者坊垣巌さん（大39）の開会宣言に始まり、まず物故者へのご冥福を祈り黙祷を捧げた。

次に大石哲史会長（大22）から３年半ぶりの開催ができたことへの会員、ご来賓の方への感謝と御礼、そして、２０１６年４月から３期（実質６年半）務めさせていただいた会長を、本総会をもって退任し和田安生さん（大24）に引継ぎしますとの挨拶があった。

続いてご来賓の三浦洋一四極会会長（大24）、野々下俊昭四極会理事・１００周年記念実行委員長（大12）からご挨拶を頂いた。

三浦会長は会長就任後初めての支部総会出席とのことで、自己紹介の後、１００周年記念募金等会員の協力に対し感謝と御礼を述べられた。その上で、記念募金の実績は募金者数が全会員の３割を切っていること、募金者数、募金額ともに大30回までの割合が約７割近くに達していることを報告され、大学31回以降の若い方の四極会への関心を高めていくことが今後の課題であると述べられた。

野々下理事は１００周年記念募金への御礼と１００周年記念式典、記念イベント、施設整備等、記念事業実施状況の内容について報告された。又、支部別寄付状況の説明、北九州支部の総会が医・工・教育福祉学部出身の方と合同で開催されていること等を述べられた。

次に、司会者（坊垣さん）より、今回の初参加者松本 均さん（大25）の紹介があり、ご本人より自己紹介をして頂いた。

議案審議に入り、大石会長より会則変更、役員選出の審議、松尾事務局長より２０２１年度決算報告、監査報告（進来監事欠席につき代読）、２０２２年度予算、２０２２年度行事計画に関する審議がなされ、賛成多数で可決された。その後、新役員に登壇いただき、和田（新）会長が新役員の紹介を行い、当会での思い出話、決意表明等を行った。

各部活動状況報告はゴルフ部、囲碁部、ハイキング部（四極の風の会）の順で行われた。ゴルフ部河野幹事からは、年２回の大会と11月20日開催予定の第２回三経戦ゴルフ大会の報告があった。囲碁部小川幹事、四極の風の会利光幹事からはコロナ感染により活動中止を余儀な

三浦会長を迎えて開かれた関西四極会の総会
（令和４年度 10 月２日に大阪ガーデンパレスで）

くされていたが、そろそろ活動再開に向けてこれから計画を立てていく旨の報告がなされた。

第一部の最後は、恒例の「フレット来夢」によるマンドリン演奏（映画「ひまわり」の主題曲他3曲）が披露された。久し振りにマンドリンの哀愁を帯びた音色と甲斐惠子さんの素晴らしい歌声に酔いしれた。

この後、予想外の飛行機トラブルにより、遅れてご出席いただいた高見博之経済学部長からご挨拶を頂いた。

１００周年記念募金へ協力いただいたことに対する御礼の後、コロナ禍の中での経済学部生の日常生活、授業、ゼミの現状、就職状況等について述べられた。就職率は98％前後、約6割が九州地区に就職しており、その中で3分の1が大分で1番多い。（関西地区は20人前後）以前は金融機関が強かったが、近年は公務員希望が増えている。

第二部の宴会の部は、河野（新）副会長（大22）の開会宣言及び乾杯の音頭で始まった。各テーブルは略卒業回順に囲まれ和やかな歓談がなされた。

約一時間の歓談の後、恒例の「籤引き抽選会」が田﨑隆徳さん（大32）及び佐藤浩巳さん（大33）の進行で行われた。田﨑さんの軽快なトークが雰囲気を盛り上げ、ご夫婦で出席された甲斐さん、野中さん（大21回）が奥様共々抽選に当たるという驚きの結果に更なる盛り上がりをみせた。

最後は、フレット来夢の皆さんに再度登場頂き、マンドリン演奏に合わせ、マスク着用ながら全員で「校歌、寮歌、逍遥歌」を斉唱し、最後に野中副会長（大21）が閉会の言葉を述べ「健康で元気に来年も集まりましょう！」と締めて、散会となった。

▼出席者（敬称略）

【来賓】三浦洋一（本部会長）、野々下俊昭（本部理事／１００周年記念実行委員長）、高見博之（経済学部長）

【会員】牛島恒夫（大１）、安部亮一、加藤皓以、利光征四郎、湯浅喬（大11）、東方匡輔、小川清一郎、橋本永爾、松本英樹（大15）、鍵本明、長谷川浩二（大17）、大谷眞二、真継忠（大19）、安部正則、井﨑賢二、甲斐誠三、河﨑照行、野中千尋、吉村鉄太郎（大21）、泉博二、大石哲史、河野博文、坂本温、辻次郎、藤野敬三（大22）、平野和彦（大23）、小玉稔、和田安生（大24）、松本均（大25）、松尾信（大26）、小俣秀記、後藤寛（大27）、児玉幸寿、満見毅（大28）、佐藤敏明（大30）、田﨑隆徳（大32）、佐藤浩巳（大33）、坊垣巌（大39）

［ゲスト］甲斐惠子（教育）、坂本加代子（教育）、坪井千恵子（教育）、野中正子（教育）

（辻次郎　記）

若手、中堅会員も加わった新体制が魅力です

東京四極会

活動再開へ始動

東京四極会は令和４年11月５日（土）12時から、これまでとは違うＪＲ田町駅直結の新会場Ａｌｉｃｅ　Ａｑｕａ　Ｇａｒｄｅｎ　田町において臨時総会・懇談会を開催しました。

コロナとの共生に入った中で、ここで総会を開かねば！と強い決意で開いた総会は実に３年ぶりです。

皆さんが一同に顔を合わせる楽しさ、喜びは同窓会の一番の魅力であることを改めて感じました。

当日は大分から三浦洋一会長、野々下俊昭１００周年記念事業実行委員長、高見博之経済学部長を来賓としてお迎えし、総勢43名の集会になりました。

総会のメイン議題は３年間の決算の一括審議と役員の新体制の確認です。新役員体制は奥川隆生理事長が続投しますが若手、中堅会員が多く加わったチームです。

ここから東京四極会は新体制で本格的な活動を再開します。

４年ぶり、開催してよかった！

総勢35人。皆さんイキイキしています

コロナウイルスの影響で、４年振りの開催となった宮崎支部総会は、令和４年11月26日（土）に宮崎駅近くのニューウェルシティ宮崎で行われました。四極会事務局からは三浦会長と野々下理事、また大分大学経済学部から高見学部長の３名の方に来賓いただき、宮崎支部32名参加の総勢35名で行われました。開催にあたっては、コロナもあり、ギリギリまで悩みましたが、これ以上延期するわけにもいかないという思い、併せて徹底した感染対策下の元に行うということで開催に踏み切りました。

今回の総会は、創立100周年式典終了後ということもあり、三浦会長から式典についての報告がありました。コロナ禍の中での式典であったため参加できなかった方も多く、どういう感じで行われたのか気になっていたため参加者は興味を持って耳を傾けていました。

総会の後は、高見学部長から「キャッシュレス決済の展開と経済分析」というテーマで講演をいただきました。ここ2、3年のキャッシュレス化、これまでのクレジットカード決済に加え、電子決済も急激に伸びています。今後、現金を扱う機会は確実に減っていく中で「お金」に対する考え方も確実に変わっていくのだなと感じました。

講演会が終わり、野々下理事の乾杯で懇親会が始まりました。今回は、これまでの大皿形式ではなく、個々に弁当形式での食事としました。もちろんコロナ対策の一環ですが、食べ残しも減り、これもちょっとしたＳＤＧｓかなと新たな発見でした。今年も事務局から差し入れていただいた清酒「四極」を交わしながら、久しぶりの仲間との思い出話に盛り上がりました。懇親会終了後は、これも恒例となった金谷先輩の号令のもと、校歌斉唱（抑え気味で）し、楽しかったひと時を終えました。

コロナ禍の中、開催可否について役員会ではいろいろ紆余曲折ありましたが、結果、開催してよかったと感じました。

▼出席者（順不同）

【来賓】三浦洋一四極会会長（大24）、野々下俊昭四極会理事（大12）、

高見博之大分大学経済学部長

【会員】金谷澄雄（大８）、荒谷文男（大14）、荒川忠義（大16）、石井伸雄（大16）、日高康貴（大17）、小橋薫（大23）、久永幸三郎（大24）、鈴木信宏（大26）、梅﨑裕一（大27）、野口和彦（大30）、壹岐富美雄（大30）、志戸本和孝（大32）、小松裕典（大32）、斎藤秀樹（大36）、高橋秀巳（大36）、吉野裕之（大38）、河野秀幸（大39）、内田公夫（大40）、河村正大（大41）、岩下博明（大41）、原口隆之（大42）、新納隆治（大43）、斎田泰貴（大45）、田崎薫（大45）、田爪慎二郎（大46）、安田広正（大47）、小城勇生（大46）、甲斐麻記子（大50）、田島裕己（大56）、有福公貴（大63）、六ケ所公平（大63）、安田光佑（大70）

（岩下博明　記）

新支部長に仲座氏が就任

沖縄支部

令和５年２月11日（金）、那覇市久茂地の居酒屋「琉炭」にて沖縄支部総会を開催した。コロナ禍の影響でここ数年開催を見送っていたが、今回４年ぶりに支部総会を開催することができた。当日は、四極会本部より三浦会長、野々下理事、大学より高見経済学部長をお迎えし、また、他学部を含めた合同同窓会として、教育学部（旧学芸学部）から１名ご参加いただき、総勢12名での開催となった。

総会では、高見経済学部長より経済学部の現状、野々下理事より１００周年記念事業の振り返り、三浦会長より四極会の課題や活性化に向けた取り組みについてご報告をいただいた。続いて、牧野沖縄支部長より沖縄支部及び沖縄県の現状や課題についてご報告をいただいた。また、牧野支部長から高見経済学部長へ、牧野支部長が編纂に携わった「戦後沖縄経済史（琉球銀行調査部編）」が寄贈された。

総会に続いて懇親会が行われ、乾杯のご発声を中本正美氏（大11回）よりいただいた。懇親会では、会員１人ずつ自己紹介や大学での思い出、近

況について報告が行われ、久しぶりの再会を喜ぶとともに同窓生としての連帯感が強まった。

いよいよ懇親会も終わりに近づいた頃、牧野支部長より自身の勇退報告と新支部長の推薦があり、事務局の仲座が新支部長に就任することについて、会員に承認された。最後は、牧野支部長の挨拶で会を締めくくった。

▼出席者（敬称略）

【来賓】三浦洋一会長（大24回）、野々下俊昭理事（大12回）、高見博之経済学部長

【会員】中本正美（大11回）、牧野浩隆（大12回）、新城俊郁（大13回）、比嘉朝彦（大22回）、安慶名三雄（大24回）、海勢頭譲次（大24回）、渡嘉敷誠（大45回）、仲座亮多（大55回）

【教育学部】金城ハル子

那覇市内の居酒屋「琉炭」の前で記念写真

湯布院の高級旅館で総会

玖珠支部

渡邊博子教授や事務局の大園さんも出席。華やかな総会に

玖珠支部総会が令和４年12月２日、湯布院町の「湯の岳庵」で３年ぶりに開催されました。

本年は特に、「玖珠支部四極会の組織の再生・確立・連携を目指しての総会」と強固に位置付けて行いました。

森支部長の開会の挨拶の後、来賓の三浦会長の意義あるご挨拶を頂き、大島事務局長より四極会本部の取組の現状について、本部と支部の組織の強化と支部活動の活性化の為の「本部と支部のあり方について」ご提案を頂きました。

議事に入り、

①玖珠支部の活性化について、「玖珠支部の会員の把握」「会員名簿の充実」「支部役員の確定」「女性会員の参加を促す為の女性部役員の設置」を協議しました。

②四極会会員としての絆のもと、会員相互に助け合い、地域づくりや仕事においてその効果を醸し出す事を誓いました。

③四極会の大学との連携において、地方経済の発展や地域の活性化の為の人材を育成する「社会イノベーション学科」に話が及び、地域の皆さんの推薦を受けて、将来、地方に帰って地域のリーダーとなる学生の推薦入試枠を設けてもらって、四極会がそれに値する若者を送り込み、将来にわたって応援しようとの意見も出ました。

又、渡邊教授から、地方創生の為に学生がデザインをし、提案しているとのミニ講話を聞きました。

後日、それに関連して、玖珠支部に「大分大学農学部」を新設すべく学生にデザインし

てもらったらとの提案も出てきました。

議事の終了後、懇親会に移り、本部より頂いたお酒「四極」（当支部会員の熊谷光顕氏が勤務する「八鹿酒造」の玖珠の地酒です）で乾杯した後、自己紹介を兼ねて各自の近況報告を行いました。その後、お酒を飲みながら、ゼミでの事、恩師の事等、学生時代の思い出に浸りました。

今年の支部総会は、梅木一郎副支部長（旅行業経営者）の計らいで、コロナ支援金を活用して湯布院町の高級旅館で格安の会費で行うことが出来ました。

本年の総会は、今後の支部の発展と地方創生が期待される今まで以上に充実した総会でした。

▼出席者（敬称略）

【来賓】三浦洋一四極会会長（大24）、大島英明事務局長（大24）、大園広子事務局主任（大34）

渡邊博子社会イノベーション学科教授（大36）

【会員】森　昌哉支部長（大19）、梅木一郎（大26）、岩尾茂樹（大25）熊谷光顕（大34）、竹尾孝一（大36）、後藤智教（大50）、由布武史（大50）

支部長に佐藤学氏を選任

日田支部

支部活性化へ向けて大島事務局長ともいい話が出来ました

令和５年１月27日（金）に三浦会長、経済学部松隈教授、大島事務局長、大園主任ご臨席のもと、日田駅前寶屋本店で日田支部総会を開催した。支部会員の他、日田に赴任中の行政・金融機関会員の参加があった。

松隈教授から、特別講演として、ご専門の分野から顧客満足の概念の講義がＪＣＳＩ（顧客満足度指数）を用いて行われた。続けて、経済学部の就職委員長のお立場から卒業生の就職状況や『ＮＥＷＳＬＥＴＴＥＲ』による優秀な卒業生や現役学生の活躍状況などの詳しい紹介があり、参加者から、久しぶりの講義が新鮮であったことや母校の状況を知る良い機会となったとする声があった。

３年ぶりの支部総会では、令和３年２月に急逝した安心院昭比古（大22）支部長の後任として佐藤学（大34）副支部長を満場一致で支部長に選任し、佐藤支部長が梶原秀一（大34）会員を副支部長に指名した。佐藤支部長から近隣の支部とも連携して活動を広げていきたいとする挨拶があった。

来賓挨拶では、まず、三浦会長から、大分銀行の支店長として赴任歴がある日田には特別な愛着があるとする言葉をいただいた。一方、特に、若い世代の四極会への参加や関心度に危機感を抱いており、魅力ある四極会作りに力を入れていくので支部においても総会参加会員を増やすなど存在を示してもらいたいとする挨拶があった。続いて大島事務局長、大園主任から、事務局は、各支部と他支部・本部とのつなぎ役であり、何なりと相談をしてほしいとする旨の挨拶があった。

議事に移り、事務局からの令和元～３年度の事業報告、会計報告について承認された。

引き続いての懇親会は、石橋雅裕（大10）会員の発声による乾杯で始まり、和やかな雰囲気の中、各会員からの自己紹介、寮歌、逍遥歌、校歌の熱唱の後、記念撮影、梶原副支部長による日田式の締めで、あっという間に閉会を迎えた。

大寒波の影響で開催が危ぶまれたが、支部活動活性化に向け情報交換をより密にしていくことなどを大島事務局長らと共有でき、大変、有意義な会となった。

▼出席者（順不同）

【来賓】松隈久昭経済学部教授、三浦洋一四極会会長（大24）、大島英明事務局長（大24）、大園広子事務局主任（大34）

【会員】石橋雅裕（大10）、井上準一（大16）、森崎郁朗（大33）、佐藤学、梶原秀一（大34）、梶原健市（大40）、佐藤正明（大40）、柳智彦（大41、豊和銀行日田支店副支店長）、野中憲治（大55、大分銀行日田支店支店長代理）、権藤陽平（大56）、冨安大二郎（大59）、裳川明日香（大70、大分県西部振興局地域創生部）

皆さんとの集いが最高！

広島支部

広島支部では、コロナ禍で活動が休止状態でしたが、令和５年１月29日に３年半ぶりに広島支部総会を開催しました。本部より三浦会長、野々下理事、大島事務局長を、大学より高見経済学部長をお招きしました。

総会に先立ち、本部と広島支部の役員で支部組織の強化策など意見交換を行い、若手や女性にどんどん参加していただくための知恵を出し合いました。

総会懇親会は会員、来賓を含め、20人で盛大に実施しました。みなさん久しぶりにお会いできて、元気だったか？変わりはないか？という声があちこちで聞こえてきました。都合がつかず残念ながら参加できなかった会員の方も、予め寄せていただいた近況報告を皆さん見入っておられました。

総会後に有永先輩の乾杯の音頭で懇親会が始まり、締めは藤井先輩の指揮で校歌を全員で歌って散会となりました。大変だった３年余りでしたがみなさんで集うことができ、あらためて四極会の意義を感じた総会となりました。

支部長・小山文人＝大37

女性会員も一人出席。久しぶりの総会でした

苦渋の決断続く

松山支部

令和５年もあっという間に１か月が過ぎました。新型コロナも毎日の感染者数はほぼ三桁台に落ち着いた兆しがありますが、まだまだ油断はできません。

さて松山支部では昨年の総会も開催を見送りという苦渋の決断をしました。私は気が小さいものですから、指示されれば断り切れずなんでも引き受けてしまう性格ですが、何事も完遂した試しがありません。実家の自治会の役員もさせていただいてますが、たまたま新型コロナで行事が殆ど中止となったため何とか迷惑がかからなかった次第です。当支部も令和に入ってから総会はずっと未開催です。外部要因があるとはいえ、４年間も中止は問題があると言わざるを得ません。しようと思えばリモート総会だってできたはずですが。そのうえ10年間も支部長に在任しているのもどうかと思われます。諸先輩や後輩の方々にさっさと相談しておけば良かったのですが、本日までずるずると来てしまいました。この件については諸先輩方が築いてきた四極会松山支部がずっと存続するゴーイングコンサーンであるために本年の早い時期に結論を出します。

昨年12月に四極会会長の三浦洋一様、同事務局長の大島英明様が新役員の挨拶と同時に、１００周年の活動実績、寄付金実績、今後の活動指針の報告のため来県されました。当支部からは私と幸地慎一様（大25）の最小人数で応対させていただきました。これは本当に偶然なのですが、当日ご参集いただいた３名の先輩方は私の大学時代の硬式庭球部の一年先輩であります。当時もお世話になり、まさか47年後にまたご迷惑をかけるとは思っておりませんでした。

最後に、当支部の総会には殆どご参加頂いていた大先輩の石川孝肇様（大５）が昨年10月にご逝去されました。総会に参加時はいつも柔和で優しい先輩でしたが、大学時代はラグビー部でご活躍されたとお聞きました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

松山支部　二宮　章治

硬式庭球部の同窓会のようでした

姫野易之さんを悼む

東京四極会　一万田道敏（大11）

故・姫野 易之 氏

慎んで姫野易之さんに哀悼の意を表します。

大学時代はテニス部に所属され、毎日テニスの練習に明け暮れた日焼けした体は健康そのものでした。

当時、安保反対運動が盛んで、全国に広がりました。大分市内でも抗議旗を掲げ、町を練り歩きました。当時としては安保反対の雰囲気でした。この運動にも参加され、活動したそうです。

三菱化成へ入社、経理課へ配属され、直江津工場アルミの精錬工場で勤務されました。本社転勤後、永年に亘り経理課勤務の後、ブラジルへ転勤しました。経験を生かして、会社の海外立地を成功させ、トップの信頼は厚いものがあったと聞いています。ブラジルはポルトガル語、その習得に余念がなかったそうです。

同窓会では意のあるところを徳々と説得し、私の後継者として理事会を務めてくれました。永年に亘り東京四極会を確固としたものにして頂きました。東京四極会は中心的支部です。本人も充分自覚されて、全国支部長会に出席、東京四極会をさらに充実したものにしてくれました。

話は変わりますが、小生の結婚披露宴の司会をしてくれました。今も感謝しています。ゴルフ会の思い出も尽きない。何度か同じ組で廻り、ホールインワンを狙いプレーをしたものです。彼のゴルフは大胆で攻めのゴルフでした。

酒が大好きでウイスキーを３分の１飲んでも平気にしていたそうです。酒豪ぶりがうかがえます。円満な人柄、豊富な経験・知識で後半は東京理化（株）の社長として腕をふるい、高い評価を受けました。

何年か後に肺がんに罹っていると聞きました。何度かの手術にも耐えました。

佳子先輩、素敵な笑顔忘れません

四極事務局　大園広子（大34）

大柄な体でしたが、細かな心づかいと温和な人柄に好感を持たれたようです。なにが起きても動ぜず解決に努めることがうれしいです。広く見渡せるのでしょう。洞察力がすごく、ご意見されると文句のつけようがありません。達人の域の様です。彼の財産です。

彼のことを充分に表現していると思いませんが綴ってみました。

心からご冥福をお祈りいたします。

入学時の
故・安東佳子 氏

森林浴を楽しむありし日の
安東孝洋氏と佳子さん夫婦

令和４年５月26日、敬愛する安東佳子先輩の訃報が女性部会「桃優会」世話人のラインに入りました。信じられない思いでした。前年、お電話で体調が思わしくないと聞いていたのですが、ご逝去の連絡がきたときは思わず涙がこみ上げてきました。

先輩はまだ女子学生がめずらしい時に経済学部に入学され、頭もよく可愛くてアイドルのような存在だったと同級の方々から聞いていました。絵本の読み聞かせをライフワークとされ、大人の女性におすすめの絵本を「桃優会」の抽選会の景品に出してくださいました。

母校創立１００周年を見据え、一人でも多くの女性会員の参加を念頭に女性部会の立ち上げが決まりました。会員の参加を募って手探りの状態の中、いち早く先輩が会に参加してくださることになりました。家庭にいる女性をお誘いすることの難しさを実感していましたので大変嬉しくありがたかったです。平成30年２月初めての女性部会「桃優会」を開催することができました。

先輩は優しい笑顔の知性あふれる素敵な女性でした。先輩のお電話で歳の近い女子学生で集まることはあったが、このようにたくさんの後輩の皆さんが参加し、いきいきと活動されている姿に感動し喜んでいます。友人たちを誘うので「桃優会」を盛り上げていきましょうとお言葉をいただきました。

先日、娘の洋子さんに先輩の写真をお願いしたところ四極会事務局に持ってきてくださいました。先輩のご家庭での様子などお聞きしました。ご両親ともに経済学部卒でしたから安東家は四極会ファーストで桃優会ができたことをとても喜ばれていたそうです。私たち世話人を家に招待したいと素敵なソファを買って準備されていたことやいつも高野会長や渡邊、佐藤両副会長、事務局の私の話もよくされていたと知り、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから先輩のいない「桃優会」となりますが、先輩の励ましのお言葉と楽しく参加されていた様子を胸に、後輩たちのためにもがんばって活動していこうと思います。

安東佳子先輩、本当にありがとうございました。

鶯やキジの声、贅沢な散歩道

大分市　村尾　哲弘（大７回）

村尾 哲弘 氏

私は週5日散歩する。行く先は決まって大分川河川敷。府内大橋近くに出ると正面に小さなダムのせせらぎが見える。ここにはよく白鷺が集い乱舞する姿は圧巻だ。しばらく眺めて橋下を抜け堤防の歩道に上ると正面に霊山。ゆったり大きい。しばらく歩くと道は右に曲り始める。晴れた日には、大船、三俣であろう山容がくっきり見える。さらに進むと正面明磧橋越えに由布鶴見、右に高崎山、この連山は何時見ても見飽きしない。

が、ここで引き返すのが私のルール。九六位山上空にはいつもジェット機が飛んでいる。銀色に輝く小さな機影（きえい）が一直線にあざやかな飛行機雲を引いて行く。さわやかだ。自宅からこんな近くで日替りの大パノラマを楽しみ、季節の移ろいが少し早目に体感出来る。ここは私にとっては奇跡であり宝物だ。

そして春が一番。菜の花が咲き、土手の草花が色づき、霊山が笑い始めると〝ポ～ホケキョ〟鶯が鳴く。〝ホーケッキョ〟なんて稚拙な歌が交（まじ）るのもご愛嬌。そして大好きな雲雀。近くの叢（くさむら）から突然鳴き声がしてホバリングを始める。最初は見栄（みえ）を切るようにゆっくりと、青空に昇りつめるとひときわ声高に大旋回をする。見逃すまいと追いかけるが、太陽がまぶしく、ふっと瞬（ばた）く間に見失い、捜していると遠くで〝ケーンケーン〟と雉子（きじ）の声がする。あっ、芭蕉の俳句だ！…素晴らしい。

『ひばり鳴く中の拍子（ひょうし）や雉子（きじ）の声』。一茶にもある。『うつくしや　雲雀の鳴きし迹（あと）の空』。雲雀ホバリングの終わりは静かで、一気に下降して草叢にすっと消える。時には地上にも姿を見せる。砂利道の階段に休んでいると、向いの繁（しげ）みからツツーと飛び出してくる。頭の烏帽子（えぼし）、その引き締まった精悍な体つきは何とも魅力的だ。驚く程近く迄寄って来て、草陰からチラッとこちらを覗っているようにも見える。可愛い。

川を覗（のぞ）いても、山を見上げても、空を仰いでも、この大パノラマは美しく心安らぐ。その上雲雀にも歓迎される。やはりここは贅沢なる散歩道なんだ。

～2月4日立春に思う～

受けた美智子妃の女装

福岡市　吉田　恭之（大８回）

吉田 恭之 氏

私が大学に入学したのは、日本の経済が戦後の朝鮮動乱を終えて、ようやく回復の兆しが出てくる頃でした。

上野丘の校門を入って左側に行くと、学生会館がありました。その中に食堂や売店、そして学生自治会の事務局などが入っていました。

当時、戦後の学生運動の黎明期だったのではないかと思います。全国の大学生の自治会組織として全学連の東大生のたしか香山委員長の下で、原子爆弾反対の旗印で盛り上がっていました。

大分大学経済学部の自治会は、二年先輩の藤原さんや首藤さんの指導の下で、原爆反対の決議をして大分の市街地にデモ行進をしていました。その市街地でジグザグデモをして、警官隊と衝突したために、参加していた学生の一人が逮捕されました。

その学生は左翼思想の持ち主ではなくて、その日の夜に釈放されて大学に戻りました。その人は真面目な学生仲間に慰められると泣いていたのを覚えています。

当時の学生運動は、左翼思想的な背景はほとんどなく素朴で正義感から出たものでしたので、幅広い年齢層から支持されていたように思います。しかしその後、一部の指導者が過激化して大衆運動から離れて行きました。

そして学内の自治会活動は鎮静化して、学校の先生を育てる学芸学部や他の大学との交流の場つくりが、主な活動になっていったように記憶しています。

私が3年生の時に、今の上皇、上皇后が皇太子と美智子妃の時にご成婚されて、みっちーブームが巻き起こりました。学園祭での仮装行列で、私が美智子妃の女装をして運動場を一周して、観客から拍手喝采をうけたことが思い出です。

余命思考に切り替えました

大分市　山口　勇（大10回）

山口 勇 氏

平均寿命を超えた私は、6月で84歳、同期の桜が散りゆく訃報が、だんだんサプライズではなくなってきました。今日在る自分は、幸せ者だと感謝しなければなりません。

物の見方、考え方には、二面あることは承知ですが、表裏、善悪、幸と不幸、生死等々、あげれば限りがありません。私は80歳を超えた頃より、物の考え方のスタンスが、従来とは真逆になってきたことに気付きました。何をするにも、その決着日を想定するようになったのです。

それは、余命を思い可能か否かを計算するからでしょう。70歳代までの大きな希望や夢を、今や実現可能な目標に設定した方が適切ではないかと思い始めたからです。ゴルフに例えれば、自分の年数以下の好スコアを目指す「エイジシュート」の夢が、「100切り」の目標に置き換えられた等であります。少し寂しい感じがしますが、「夢では時間が足りないから、現実の計算をするのです」。

最近は、余命がちらつき、創意工夫のプラス思考ではあっても「無～理～」が必ず頭をよぎるようになりました。人生一回限りの大事である死は、どなたも逃れることはできない宿命です。「眠りは、一瞬の死である」と考えれば、私の死への不安は、ずいぶん軽く薄めることが出来ました。

歳を重ねるごとに、時の過ぎ去るのが早く感じられます。世代交代も、世の変化とともに急速に進んでいきます。この30年の間に日本を襲った劇的な変化要素は「グローバルスタンダード、時価会計から始まったバブル崩壊、PCの普及、情報化社会、少子高齢化、スマホ世代、コロナ禍、AI革命、赤字国債…」等が挙げられます。我々高齢者は、全くついていけません。さらに戦争の二文字が加われば、読み解き予想など到底出来るものではありません。30年後の近未来が、どんな日本になるのかが心配です。若者諸兄！　頼みますよ！とは言え、ちょっと頼りなく思うのは私だけでしょうか？いやいや「老兵は去るのみ」ですね。さあ！短縮日本語をしゃべる宇宙人のような若者達にすべてを託しましょう。我々が想定外の新しく素晴らしい日本をきっと創ってくれるでしょう。ブラボー！！ブラボー！！です。

老兵の一人、私の人生には、迷い道に直面することも多くありました。そんな時、迷いを解決してくれた先人の言葉も数多く、中でも同窓の先輩が教えてくれた言葉がすごい。先輩はお寺の和尚さんになられているだけに発する言葉に重みがあります。10か条お教えいただいたのですが、その代表格をご紹介。「すべてがあなたにちょうどいい」「今のあなたに今の妻がちょうどいい」「今のあなたに今の子供がちょうどいい」「死ぬ日もあなたにちょうどいい」だそうです。ちょうどいい締め時となりました。

四極文芸に投稿が生きがい

大阪府　利光　征四郎（大11回）

利光 征四郎 氏

同窓会誌四極文芸欄への俳句投稿は、118号（令和2年4月）が始まりで、その後は今春4月発行の125号で7回目となります。最初の投稿に次の句があります。

春愁の頃もありけり四極山

学生時代に思いを馳せると先ず浮かぶのは、広いグラウンドとそこで過ごした春のひと時の記憶です。校舎側の小径に桜が咲き、西方には高崎山が霞む長閑な風景に浸りながらも、なんとなくもの哀しさを感じましたが、その哀感を高崎山の名に籠めて詠みました。四極文芸欄は以前より愛読しており、諸先輩方の俳句に学ぶところ大で初投稿だけに気合が入りました。さて、私の俳句歴は次の通りです。小学校高学年時に俳句を授業で学んだことがあり、趣味としての俳句はリタイア後の平成20年頃から地域で俳句サークルばかりの冒険心を生んで、四極文芸投稿へとつながったのかもしれません。俳句作りでは次のことを意識しています。

○句作のテーマを見つけたら、相応しい季語を選ぶ。季語は俳句の大黒柱。

○情景が目に浮かぶ言葉で一気に詠む。

○言葉は簡明に、説明は不要。

しかしながら、実態は逆のことをしていることの方が多く、反省ばかりの俳句人生です。

（令和5年2月3日）

四極会に元気をもらった！

東京都　佐藤　泰久（大12回）

佐藤 泰久 氏

鮮明に記憶に残っていることは、学生運動で、電車道のジグザグのデモ行進、県警の座り込みなど！！！35年入学時は安保騒動で、講義ほとんど無しでした。

さて、私は語学が不得手で、加えて中国長春（満州新京）生まれ、引き揚げ者の経験から第2外国語は中国語を選択しました。素晴らしい權賀先生に師事し、四年間を楽しませていただきました。漢詩を皆で明るく吟唱し、今も鮮明に記憶しています。ご趣味の絵はチャーチル会に所属で、私は絵のモデルを頼まれました。ご褒美に〝玖珠の万年山〟を頂戴して、この風景画に60年癒されました。

先日、地元出身の学友宅へ気持ちよく迎えられ想いを繋ぐことが出来ました。

次に、内田ゼミ（国際経済学）では、先生が優しくて、笑みを絶やさず、穏やかな雰囲気でした。

当時話題のＯＥＣＤなどを勉強しました。残念なことに内田先生（経済学部長）は卒業式の直前にご逝去されました。その後、平成26年12月に大分オアシスタワーホテルにて、「故内田教授追悼ゼミ卒業生全国懇談会」を、開催しました。来賓は、ご子息夫妻、市原学部長、石川四極会会長のご出席でした。ゼミ12回生の方々に、名簿整備、開催準備など絶大なご支援の賜物で、約50名出席して、懐かしい話、和やかな雰囲気で、大成功を収めました。

社会人として、日本水産で50年間勤務しました。創業１００年以上、グローバル企業で、グループ１００社程度あり、水産、食品、ファイン、冷蔵物流の４業態です。

私は、持ち前の高商魂で、〝日々誠実に、心身ともに健康に〟を生活信条にして、頑張りました。業務は主として経理財務部門で、専門書やハウツー書など乱読の勉強尽くしでした。外部の勉強会、研修会にも積極的に参加し、世界十数カ国を訪問しました。私の会社人生は、経理マンとして、生き残り、発展策を全力で遂行しました。その中で努力の甲斐あって、№２代表取締役副社長としての職務を全うすることが出来ました。

在京同窓会では、同期会で、毎年恒例の会や卒業50周年の大会など懐かしく、楽しみにしていました。全国ではサンクス会も数回参加しました。他に、先輩11期生6名程度で〝カラオケ懇親会〟、並びに12・13期生で〝大分経済同游会（素晴らしいネーミング）でゴルフ会及び懇親会を年数回楽しみました。

各同窓会では、いつも多くの方々にお世話になっており、在京のわびしさ、苦しさを元気づけられ、前向きに頑張りました。

大分県知事に任命された〝豊の国特命かぼす大使（２００５年９月）並びに〝由布市観光特別大使〟を拝命しています。

最後のお勤めは、在京大分県人会会長（２０１５～２０１６年度）でした。四極会では、初めての就任でした。明るく、元気な、若い世代を大切にした県人会活動を目指して頑張りました。同窓会の皆様のサポートに感謝します。

最後になりましたが、大学１００周年記念では、募金活動、式典挙行など12期生野々下様の大活躍並びに関係各位の皆様のご協力に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

同窓会各位のご健勝と益々のご活躍を祈念致します。

甦れ！首里城　高まる期待

那覇市　新城　俊郁（大13回）

新城 俊郁 氏

沖縄県民のアイデンティティのシンボルともいうべき首里城が、２０１９年10月31日の火災で焼失した。出火が午前2時40分頃、鎮火したのが午後1時30分頃というのであるから、実に10時間以上も燃え続けたことになる。この火災で、正殿、北殿、南殿に加え、その付帯施設等7棟と貴重な美術工芸品４００点超が、無残にも焼け落ちてしまった。損失額は70億円以上にも上ると見積もられている。

ところで、15世紀前半に創建された首里城は、今回を含め火災や戦災で5回も焼失した歴史がある。沖縄戦で焼失して再建できたのは、戦後47年も経過した１９９２年11月のことである。沖縄県民が首里城の再建を歓声を上げて喜んだ時からまだ27年余しか経っていない。今回の火災で沖縄県民はまたしても、その心のよりどころを失ってしまったのである。

ようやく火災の事後処理も一段落し、沖縄県知事を先頭に再建に向けた活動がスタートした。その直後から、沖縄県民だけでなく、国内外から多くの激励の言葉と心温まる支援を頂いている。難題となっていた再建資金についても、政府からの援助だけではなく、多くの県民や国民の方々に加えて、企業や県市町村、さらには海外に移住したウチナーンチュ（沖縄関係者）等からも多額の首里城再建寄付金が寄せられたと聞く。

こうした支援の輪のお陰で、２０２２年11月3日には首里城正殿復元整備工事起工式が執り行われ、２０２６年秋の正殿完成に向けて復元工事がこれから本格化していく運びとなった。沖縄県民の一人として、完成した4年後の正殿の雄姿を想像するだけで気持ちの高ぶりを覚える。「甦れ！首里城」と大きな声でエールを送りたい。

現在進められている復元工事は一般公開中である。そして、首里城周辺には、園比屋武御嶽石門や玉陵等の世界遺産も点在している。4年後と言わず、首里城が甦っていく過程も是非多くの人にご覧になっていただきたい。みなさまのご来場を心よりお待ち申し上げる次第である。

私を育んだ鴻図寮讃歌

大分市　松嶋　育男（大14回）

松嶋 育男 氏

裕福ではない田舎の三男坊が、どうにか大学を卒業できましたのは偏（ひとえ）に授業料の安さと、寮のおかげであったと感謝しています。厚労省の統計では、昭和37年（１９６１年）入学時の全国世帯の平均年収は約70万円、国立大学の授業料は、なんと年９０００円（月額７５０円）でした。さらに有難かったのは寮費が年３３０００円（月額２７５０円）でした。この年間授業料と寮費の合計４２０００円は、当時の全国世帯年収のわずか６％ということになります。それだけ私学に比べ、

政府が投資していたのです。授業料について父親から、「幼稚園の費用と同じじゃないか。有難いことだ。」と言われたことを記憶しています。今ではとても考えられないほど恵まれた時代であったのです。

通学生であった諸兄には申し訳なく思いますが、鴻図寮は学部の敷地内にあり、よくぞ選んだり、「楼上遥かに見渡す」一望の立地でした。この寮名は司馬遷の史記「燕雀安（いずく）んぞ鴻鵠（こうこく）の志を知らんや」からきていると思っていましたが、寮歌の作者はどのような方か気になって、四極会事務局で教えて頂き、作詞は高商第2回卒業生「市村　宏」先輩、また逍遥歌「花咲く丘」は、英文学の佐瀬順（より）夫（お）先生であることが分かりました。この二つの歌は互いに連関し、鴻図の志と、古い歴史と伝統を持つ大分の美しい自然が見事に表現されています。

寮は1年から4年生まで総勢２６０名の大所帯でしたが、5名の役員のご指導のもと、「自治節制の誇りある我が寮建てり」でした。今でも先輩方の鷹揚な包容力を思い出します。各地の同窓会でも、宴（えん）酣（たけなわ）「校歌、寮歌、逍遥歌」は必ず歌われます。その時の肩を組む同窓生の表情は、竹馬の友さながらです。当時の大学進学率はおよそ25％でした。そのような環境下にあっても、向学心さえあれば卒業できたのは、まぎれもなく4年間お世話になった「鴻図寮」のおかげでした。

旦野原のキャンパスへ移転して早くも54年。残念ながら鴻図寮という名前が消え、単に学生寮に変わっています。しかも在寮は2年、全個室です。これでは最も多感な時期に身に着けるべき、コミュニケーション能力は、サークル活動などの他には望めそうにありません。官立高商の設立理念は「大企業の任に耐えうる人材育成」と書いていました。明治維新以来、政府は「教育は最も大切な国家事業の一部」と見なしていました。その流れを受けた鴻図寮の恩恵を、全身に受けた私達は、この上もなく幸せな時間と空間の享受者であったのです。諸先生、先輩方、同窓生、後輩の皆さん、大変お世話になりました。私の人生のゼミはかけがえのない「鴻図寮」でありました。

人材育成に国の支持を

大学のＨＰには、医学部以外の学生総数は約３９００、経済学部定員１学年２７０、寮定員２９０とあります。寮生は（２９０／３８００）全学生の７％に過ぎません。鴻図寮には（２４０／６４０）38％が入寮できていました。

経済紙によりますと、北欧3国の消費税率はノルウェー24％、スウェーデン25％、フィンランド22％というように非常に高い一方、食料品は17～12％、その代わりに向学心さえあれば幼稚園から大学まで、授業料と食費が無料と書いています。消費税が高くても、教育は将来の国を支える人材育成の、重要な国家事業であるとの考え方が国民のコンセンサスを得ているからであると報道されています。

これであれば、一組の夫婦が二人以上の子供を持つことは十分可能です。22年度の厚労省統計では、1・27。これは２００名の若い夫婦が平均合計１２７人の子供しか産んでいないことであり、少子化防止対策は喫緊の国家事業であることが分かります。

昭和30～40年代に育った私のような三男坊が無事大学を卒業できたのは、年間授業料9千～1万2千円、寮費月額3千円という、今ではとても考えられない程の国の支援があったからです。

「同窓のミステリー」に感激

大分市　三ヶ尻　悦子（大15回）

三ヶ尻 悦子 氏

１９６３年４月、文学部志望だった私に門戸を開いてくれたのは、大分大学経済学部でした。

アダム・スミスの「国富論」を初めて本立てに飾ったとき、アカデミックな香りが漂って来て、うれしかったことを思い出します。11月23日、「九州地区ＥＳＳオラトリカルコンテスト」が講堂で開催されているときでした。誰かが「池田勇人首相が暗殺された」そのすぐあとすぐに「暗殺されたのはケネディ大統領」と訂正されました。世界は米ソ冷戦下、日本は高度経済成長真っ只中に、私達は青春時代を送りました。学生時代に勉強したのは、卒論を書いたときだけでした。中身は記憶していませんが、タイトルは「管理通貨制度とインフレーション」でした。

卒業後しばらくたって同期の高橋淳吉さんに「山水会」のことをお聞きしました。山水会で当時大分合同新聞文化センター社長をなさっていた帆足三郎さんから「大分政経懇話会」を紹介され入会しました。２００９年3月26日、ホテル「白菊」で開催された講演会の前に、帆足社長が東大教授藤原帰一先生と懇話会メンバーの数人が懇談する機会を作ってくださいました。映画通の先生に「ウォーターゲート事件のとき、ワシントンポスト紙の記者に情報を提供したのは誰ですか？」とお聞きしました。先生が「ＣＩＡの長官です」と即答なさったことを今でも鮮明に記憶しています。その後、同期会を一度開催することが決まりました。２０１０年から2年毎に開催され17年は卒業50周年にあたり、栗原稔事務局長指揮の下11月19日大分センチュリーホテル「桜の間」で盛大に行われました。私は同期会のたびに学生時代にお会いしたことがなかった方々と親しくお話で出来ることを本当にうれしく思い、このことを「同窓のミステリー」と名づけています。

昨年の11月20日「福田平八郎と大分の日本画家たち展」をみました。牧皎堂画伯の「大友使節羅馬

入府の図」に深く感動しました。この作品は１９３７年の第一回県美術協会展に出品されたのですが県美協初代会長は、大分高商の石丸優三校長先生で、この縁から高商の所有になり現在は、大分大学経済学部会議室に展示されているそうです。

上野台が80数年以上前から、文化発信の地であり続けていることを、本当にうれしく心から誇りに思います。

感動と喜び〝どんど焼き〟

大分市　安東　政義（大16回）

安東 政義 氏

令和５年１月14日10時から、中判田のふれあい広場の東側の田んぼ10アール余りの広さの特設会場で行われました。あいにく前日からの雨で開催が危ぶまれましたが、当日は雨も上がり、多少ぬかるんだ場所で役員や宮司の方たちは長靴着用でした。地元選出の大分市議会議員２名、判田校区自治会連合会長、判田公民館長らをお招きし、松岡の御手洗神社の宮司に神事をお願いしました。

神事終了後、５人の役員による点火で、どんど焼きは始まりました。昨夜来の雨でやぐらが湿っており、最初は火のつきがよくなかったのですが、徐々に燃え盛り、大きな炎となって空高く上って行きました。近くでは大釜で、缶入りの甘酒やぜんざいを温め、会場にお集りの皆様くお配りしました。

大きな炎で周囲も暖かくなり、40名余りの皆様には、コロナを焼き尽くすような炎のすさまじさに感動と喜びが満ちあふれ、身も心も暖かくなっていったようでした。

どんど焼きには準備に1年間かかります。役員約10名が予め、やぐらを組む場所を設定しておき、木材類を集めます。校区内に石材店があり、中国から輸入の墓石の保護材を定期的に田んぼの所へ運んでもらうようにしています。12月に入り、集めた木材でやぐらを組み上げ、上部や囲いに竹や笹、それに杉の葉や皮でやぐらをおおい全体を緑一色の葉っぱでおおいます。

年末には自治委員にお願いし、判田校区の皆様に回覧板でどんど焼きの案内とお正月用の飾り物やお札類の回収の案内を出します。お正月が終わった4日からふれあい広場の中央カウンターの上にどんど焼きの回収箱を置いて、その中に入れてもらいます。今年は3回目となり、かなり定着してきましたので飾り物等はリンゴ箱8個ほど集まりました。これらを当日、既に準備していたやぐらの上にきれいに飾ります。そして周囲に笹のついた竹を4本たて、縄を張り、それに二辺5枚ほどの御幣をつけて準備完了です。

どんど焼きは、判田校区で令和3年1月に当時、コロナ感染拡大を早く終息させる願いをこめて始められ、今年で3年目を迎えました。

良い学生が集まる大学に

千葉県松戸市　佐藤　行弘（大17回）

佐藤 行弘 氏

終活に向けて

一昨年度、後期高齢者の仲間入りをし、いよいよエンデイングノートや生前整理に取り組む年齢になってきた。改めてこれまでの生き様を振り返ると、思いの外、波瀾万丈の人生であったと言えるかもしれない。例えば、直近では71歳を過ぎた２０１８～２０２１年の３年間で４回の大手術を行った。その内、２回は想定していなかった脳の手術であった。リスクも覚悟したが幸い有能なドクターの執刀を受け無事完治し、今ではゴルフも出来るようになった。

この世の中、森羅万象、すべての生命は原則将来に向けて連鎖していくので、我々は残された余生を感謝し身の丈に合った自然体で心豊かに生きるという気持ちが大切だろうと思っている。ただ、終活では、相続・遺言、書籍・書類・思い出のアルバム等の断捨離、墓守の問題、介護が必要となった時の対応等々、多岐にわたる課題につき一定の方向性を決めておかねばならないので予想外に忙しい日々になりそうである。少なくともこれから３～４年はかかるだろうと想定している。

このような状況下で、私の体験から如何ともし難い「心残り」が一点ある。四極会本部の皆様方にもご理解頂ければ幸いである。１００周年記念行事も無事終了し、これまでのご尽力に大変感謝している。

さて、心残りの点というのは、経済学部の今後の将来につき良い学生が集まるユニークな大学にしていけないものかと老婆心ながら思っている。

私は17回生で上野丘校舎の最後の卒業生であるが、残念ながら卒業式は学生運動の真っ只中で中止となった。ただ、大学の基本的雰囲気は教授・同僚の関係を含めて極めて和気あいあいであったと思う。教授の中には経済学部を卒業した後、神戸大学や一橋大学等々の大学院を経由して

経済学部に戻ってこられた方も数人おられたし、他大学でご活躍しておられる方々もおられた。

また、当時の卒業生については一部上場企業に就職する学生も比較的多く、殆どの方が企業で大活躍され、中には役員になられた方も相応におられた。

現在では社会環境も大きく変化してきているが、大学の有り様としては地元や地方経済への貢献に加え、国内外で活躍できる人材を育成することも大学発展の重要な要素であると感じている。大学教授陣へのアプローチも含め、どうか広い視野で学生を育成する大学に発展するようご尽力頂ければ幸甚である。

図書館協会の選定図書に

横浜市　鳥越　幸雄（大18回）

鳥越 幸雄 氏

昭和45年卒業生は、多くが高度経済成長の波に乗って大分から見ず知らず同然の大都会へ旅立ちました。私も某電機メーカーに入社し、勤務地は東京や横浜でした。寮の友人と毎週末繰り出した三駅離れた鎌倉が身近になり、同社を退社して数回変わったどの住居もそこから近い所でした。鎌倉を散策すると史跡解説文を彫った石碑が数多く見られます。その文章の詳細を知ろうと「平家物語」を何度も読み返し、後半の主人公・源氏と鎌倉史跡との対応関係がやっと分かりました。

次に、前半の主人公・平清盛も京都史跡と結び付けようと、楽しそうに日本文化や季節の美を愛でる人々を横目に、私は分刻みのスケジュールで京の町を駆け巡る取材旅行を続けたのです。観光客をやっかみつつ、第一作目「平清盛と京都の史跡」を上梓したところ、日本図書館協会選定図書になって驚きました。

その頃、「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録の話が持ち上り、私も元寇、幕府滅亡、鎌倉府等の書物を読み漁りました。一冊で鎌倉通史を網羅した本は見当らなかったからです。そこで、第二作目「鎌倉武士と史跡散歩」の出版を思い立ちました。ただ、残念ながら販売日の少し前、イコモス勧告で鎌倉世界遺産は却下されていました。

前二作に木曽義仲の話を追加すると、源平時代全体を記述したことになります。「平家物語」の実盛や木曽最期の名場面を心に抱いて、第三作目「木曽義仲伝」を著しました。熊の出没箇所も含め、全国18府県に亘る史跡を踏破した過酷な旅の成果でもあります。ともあれ、日本中世を三冊に記して満足し、これで「執筆活動は止めた」と決めたのでした。

昨年の大河ドラマは「鎌倉殿の13人」。文芸ではまず取り上げられない北条義時！「描きたい」と思った瞬間、執筆終了の決意は簡単に揺ぎ、第四作目「北条義時と鎌倉武士の志と魂」を書き始めました。今までの拙著では歴史の通説・説話を扱いましたが、鎌倉殿の話は複数の説が対立しており、今回ばかりは著者の立場が求められました。びくびくしながらも、私の考えを述べる快感を味わって筆を進めました。

以上が私の出版事情であり、この14年間、多くの方々と接点がありました。特に四極会関係では、交流がある同期生から原稿への助言や所見そして何より心強い応援を、存じ上げなかった先輩・後輩や懐かしい同輩からも読後感想を頂きました。又、この寄稿文のお陰で、ずっと以前に知り合った方が私を思い出されたかも知れません。4冊の書物だけでなく、四極会のこの繋がりも含めたものが私の出版の思い出であります。

絵本を自費出版して

大分市　林　賢治（大18回）

林 賢治 氏

クロさん南十字星の向こうにブラックホールが見えてきたよ。あそこに突っ込むの。うんそうだよ。行くぞクロさん。うん、お父さん手を離さないでね。離さないよ、これからもずーっと一緒だからね。みんなありがとうバイバイさよならー。

これは私が初めて出版した絵本の最終章です。18歳の春、福岡から久大線の列車に乗って大分に来ました。ホコリだらけの寮にはいり4年間楽しい青春時代を過ごしました。

テニス部に入り、真っ黒に日焼けして走り回った。古希の会で顧問の御手洗先生に会い、オー、林君か！テニス下手だったなと言われました。よく私の事を覚えていてくれたと感激しました。

大学を卒業した後10ヵ月程、関西方面で働き、又大分に戻って来ました。退職した後は同期生と月に一度のゴルフと飲み会。食べて飲んで学生時代を振り返り、みんなに会えて最高だねと盛り上がります。

で、この絵本が出来たいきさつはラインでつぶやいた短い話です。これを読んだ姪っ子が叔父さんこれ絵本にしたらと勧められた。うん、絵本か良いね、が私は絵が下手です。でも、これ俺の人生に華を添えてくれそうだと半年程絵の練習をした。上手くなれないが絵本を作る決心をした。鉛筆で下書きをして色付け何枚も書き直し四苦八苦、やっぱり無理かな、否ここで止めたら何も残らない。良いではないか自分をさらけ出せ、やらなければ何も生まれてこないぞとハッパをかける。どうにか一枚の絵が出来た。良いかもこれで行こ

う。ネットで見つけた印刷屋さんからきれいに仕上がった絵本が届いた。

小・中・高・大学の友達等にレターパックで送った。おー、何だこれはと皆ビックリしていた。ライン、電話、手紙などで「良いじゃん」とうれしい言葉が返ってきた。林さん、次回作待ってるよとの言葉に煽られ思案中です。

大分大学経済学部に入学して本当に良かったなとしみじみうれしくなります。これからも仲間と共に前向きに頑張って生きていきます。

「お笑い２題」に吹き出す

大分市　足立　一馬（大19回）

足立 一馬 氏

平成26年7月12日の地元の新聞に日本笑い学会副会長の昇幹夫さん（産婦人科医）が大分市内で講演された記事が載りました。演題は「あなたの笑顔、何よりの薬、元気で長生きPPK（ピンピンコロリ）」

病気に負けない体を作るには免疫細胞のひとつであるナチュラルキラー細胞を活性化することが重要だと話され、ナチュラルキラー細胞を活性化するには、①笑う②泣く③人に話を聞いてもらうなどの重要性を指摘されたそうです。

私はこの記事を読んで以来、見たり聞いたり自分で経験したことで、笑ってもらえるような話を少しアレンジしてノートに書き留めています。本当の話かどうか定かでない話もあります。2つほど紹介します。

（その1）創造性

ある有名なプロ野球選手の大学時代の話です。英語の口頭試験があり試験官が「英語が不得意でもこれくらいの質問には答えられるだろう」と「Where do you live?どこに住んでいますか」と質問したそうです。すると「I live in Tokyo.」と答えが返ってきたので試験官は「それではそれを過去形にしてみてください」と質問すると、しばらく考えて「I live in Edo.」と答えたそうです。想定外の答えにびっくりしたそうですが試験官は「この学生の創造性はすばらしい。きっと将来大物になるだろう」と思ったそうです。この選手とは誰でしょう。

（その2）退職金

平成18年ごろ、まことしやかにうわさされた話です。

公務員のある男性が定年退職し退職金を受け取りました。その当時の公務員の退職金は3000万円くらいだったそうです。退職金を受けっ取った後、奥さんがダンナさんに「私に退職金の3000万円を見せて」と話したそうです。数日後ダンナさんが銀行から現金3000万円をおろして奥さんに「これが退職金の3000万円だ」と見せると、奥さんが「この現金3000万円を今晩私に抱いて寝かせて」とせがむので、ダンナさんは奥さんの言うとおりにさせたそうです。次の朝、ダンナさんが目を覚ますと奥さんと退職金の3000万円を入れていたバッグが消えてなくなっていたそうです。

「ありそうな話じゃ。人ごとじゃねーな」と、現役時代、奥さんに苦労ばかりかけているとこんな目に合うかもしれないと笑えない人たちも少なからずいたようです。

令和の時代を担う世代に負担をかけないように元気で長生きしたいものです。

剣道部の仲間と寮の仲間

熊本県荒尾市　宮崎　政利（大20回）

宮崎 政利 氏

私は今年で73歳です。約30年にわたって㈲宮崎産業の代表者として愚直に勤めて参りました。弊社は製缶加工技術を駆使し、信号機を支える鋼管柱とアルミを溶解する炉のケーシングを製作しています。職人たちが、鋼材の切断・組立・溶接を熟練の技術で担ってくれており、多方面から信頼をいただくことができています。誠にありがたいことでございます。

私は昭和43年度の1年間、上野丘の大学と鴻図寮で過ごしました。2年生から卒業するまでは旦野原校舎と新しい寮での大学生活でした。一番の挑戦だったのは剣道部に入部したことでした。元来私は運動がからっきしですが、ある忘れ得ぬ言葉により、まったくの初心者であったのを一念発起いたしました。実は母校である熊本県立玉名高等学校の卒業式にて、金栗四三大先輩が祝いのスピーチをくださったのです。「若い時スポーツをしなさい」というシンプルなメッセージは私の人生を実に豊かにしてくれました。下手でありながらも練習に励み有段者となったこと、そして剣道部で得た先輩・同期・後輩は半世紀を超えて今も繋がり、まさに私の財産であります。

令和4年6月24日、花邨にて同期会があり、知己が集いました。剣道部のキャプテンだった大下悦司君と卒業以来の邂逅を果たし、たくさんの話ができたことは喜びでした。翌日の母校訪問ツアーでは徳丸修先輩と同じバスではしゃいでしまいました。かつて、徳丸先輩とは何度もご一緒させていただいたものです（20年前に徳丸先輩と橋本啓先輩と田舎庵で飲み、還暦前には徳丸先輩・小野俊明先輩・古寺晴樹後輩・大石英俊君・冨士本勇三君と都町ホテルで再会し、その後冨士見カントリークラブで大石英俊君・冨士本勇三君と脇州児君の4人でゴルフを楽しみました）。

6月25日の夜は高木龍一後輩のなじみである都町の居酒屋とスナックで川村正博君と3人で昔話に花が咲きました。

この他、寮での仲間とも親交が続いています。今から約10年前、寮で同じ部屋だった藤井健治君の三回忌の法事の時は、大石英俊君・山口博君・杼原茂満君（故人）の4人で福岡から出雲へ飛びました。松江のホテルで藤井君の家族と弟さんといとことの会食も印象深いものでした。

昭和43年4月に、人吉市出身である和田幹雄教授（故人）を顧問として人吉高校卒と玉名高校卒で双璧会を結成しました。人吉出身は内山茂先輩、別府進君、玉名出身は江畑守勇先輩（故人）、橋爪謙太朗先輩、米村久君でした。

あの剣道部と寮での出会いから、こんなにたくさんの仲間を得たことに、しみじみと感謝でいっぱいになります。年を重ね、それぞれの岐路もあるでしょうが、仲間と旧交を温めることは私の何よりの楽しみであります。またお会いする機会には、皆様ぜひとも私に声をかけてください。私は大喜びしますよ。

○6月24日

剣道部キャプテン大下悦司君

○6月25日

母校訪問ツアーで徳丸修先輩とバスが一緒だった。

50代の頃、徳丸先輩と橋本啓先輩と田舎庵で飲んだ。

60歳になる前に小野俊明先輩・徳丸先輩・古寺晴樹後輩・大石英俊君・冨士本勇三君と都町ホテルで再会した。翌日は冨士見カントリークラブで大石英俊君・冨士本勇三君と脇州児君の4人でゴルフをした。

○6月25日

夜：高木龍一後輩のなじみである都町の居酒屋とスナックで川村正博君と3人で飲んだ。

○大学3年の夏

鹿児島大学で剣道の九州大会があり、試合の終わった夜、工藤寿久君の父が国立病院の事務総長だったので工藤君の両親が生活している官舎にお世話になった。

翌日：桜島・磯庭園・城山と工藤君のお父さんに観光案内をしてもらった。

次の日：宮崎大学の寮に泊まる

翌日：青島海岸で海水浴。その後大分に戻る。

○今から約10年前

寮で同じ部屋だった藤井健治君（故人）の三回忌の法事に行った。大石英俊君・山口博君・杼原茂満君（故人）の4人で福岡から出雲まで飛行機で行き、帰りも飛行機で出雲から福岡だった。お寺で法事があり、お墓参りできた。松江のホテルで藤井君の家族と弟さんといとこと会食があった。大学時代の4年間と福岡銀行での2年間を荒尾市を出て生活していた。

趣味三昧のセカンドライフ

大分市　佐藤　辰夫（大22回）

佐藤 辰夫 氏

皆さん、「伊庭貞剛」という人をご存じでしょうか。

明治時代の実業家で、第二代の住友総理事です。別子銅山中興の祖といわれています。

事業の多角化を進め、住友銀行・住友金属・住友林業などを設立させた人物です。

これだけの活躍をしながらも、還暦前の58歳で引退し、故郷に居を構え二十数年悠々自適に暮らします。「事業の進歩発達に最も害をするものは、青年の過失ではなくて老人の跋扈である」との信念のもとでした。

私は30歳前後で伊庭を知り、とても足下には及ばないものの退職後は趣味に生きたいと思っておりました。

十数年前、父を亡くし当然ながら寺院との関わりが増えて来ると細かいしきたりや作法、経文などわからないことだらけで少しずつ本を読んだりお寺さんに聞いたりしていました。が、退職後はもっと仏教のことが知りたくて、月に2・3回県外の大学で学んでいます。しかしながら、学べば学ぶほど奥が深くなり解らないところがどんどん出てきて困っています。でも、ほんの少しでも進歩を感じるとうれしくてなりません。なかなか前に進みませんが可能な限り通って勉強したいと思っています。ちなみに、表題の「三昧」も仏教用語です。

もうひとつの大きな柱が家庭菜園です。幸い我が家には畑があり、近隣の人たちに家庭菜園用として作ってもらっていました。私も仲間入りさせてもらい、いろいろな野菜と花を楽しんでいます。先輩の家庭菜園人から助言を受け、土作りから始めています。同じ野菜を同じように育てても去年と今年では出来が違うのも面白いものです。なかなかプロの農家さんには程遠いですが、様々な野菜作りを楽しんでいます。なお、3月の下旬頃にはミニチューリップ畑が出現する予定です。

このほかに、楽しんでいるのが月2・3回の麻雀、大分トリニータなどです。麻雀は大学13回の帆足先輩の教室で様々な人と打たせてもらってよい交流と頭の運動ができています。大分トリニータは応援をはじめて四半世紀になります。もう一度J1での姿を見たいものです。

他にも趣味は、いろいろありますが、機会があればまた披露したいと思います。

気になる「お悔やみ欄」

大分市　是永　弘実（大23回）

是永 弘実 氏

最近床について、眠れないままに目を閉じていると、今就いている仕事のせいか、大学時代のことが次々と脳裏に浮かびます。

硬式テニス部では、1年生の厳

しい夏の合宿は何とか乗り切ったものの、1年間余りで身体を壊して挫折。勉強では、単位の取得漏れがあり、危うく留年のところを当時の学務係の職員の方の配慮により、集中講義を受けて、何とか留年を免れるなど、真剣に打ち込む対象を見つけられず、なんとなく日々が過ぎていきました。

翻って、今の分大生はどうだろう、時々大学にお邪魔するが、私の学生時代と違い、キャンパスの雰囲気は落ち着いており、皆さん総じてまじめです。

いらん世話かもしれないが、進取の気鋭を持ち、学生としての枠を超えて何か新しいことに取り組む学生もいる一方で、中には苦学している学生もいるのではと、思いを巡らせています。

彼らが少しでも充実した学生生活を送れるよう、何らか手助けをする仕組みができないだろうか。

朝、眠気まなこで起きると、新聞のお悔やみ欄が気になります。70を過ぎた人がいると、どうしても自分の年で忌引き算をしてしまう。あと何年生きられるだろうか。このように考えるのも凡夫たる所以か。

ところが、四極会の諸先輩方には、様々な分野で生き生きと社会活動をされ、まだまだ活躍されている方がたくさんおられます。こうした方々に接していると、やっぱりすごいと心から改めて敬服させられる次第であります。

さて、私事で恐縮ですが、この3月をもって退職となりました。

皆様方の十分お役に立てなかったことが内心忸怩たる思いがありますが、一方では、安堵もしております。

しゃれた曲に出会う

大分市　浅野　総一（大24回）

浅野 総一 氏

最近「しゃれた曲だな」と思ったのが「Scotch and rain」（スコッチ・アンド・レイン）。私と同年代のシンガーソングライター南佳孝さんの作曲、作詞は松本隆さん。

『酒を飲まないかと　無理に誘われたの』で始まる。マンション（たぶん大都会）の屋上で、急に降り出した夏の雨を避けもせず、夜空に踊る女と男。『スコッチ雨で割れば　言葉がいらなくなる　髪が濡れて　ブラウスが濡れて　心までも濡らした』と続く。ウーン、若いとき、こんな曲は知らなかったな。ウイスキーは炭酸水で割った方がうまいとは思うけど。

曲との出会いは、自分でハンドルを握る車の中。大分合同新聞社を65歳で退職したが、以後も平日は新聞社で仕事をしている。週末の休みに時たま、妻と近県へ車で旅をする。大学（竹村脩一ゼミ）の卒業旅行で行った山口県萩市も40数年ぶりに訪ねた。昔、ゼミの仲間と歩いた武家屋敷跡の町並みや松下村塾は懐かしく、萩城跡が見える海辺の温泉宿に泊った。日本海側は魚が豊富で、ノドグロやフグも手ごろな値段でうまい。

体調管理のために飲酒を控えているが、好きな日本酒の酒器は買ってある。これも週末の旅で行った長崎県佐世保市の三川内焼（みかわちやき）。かつては平戸藩の御用窯で、窯元の近くには三川内焼美術館があり、江戸時代からの各窯の作品が展示されている。入手した小ぶりなかんぴんは、白磁に染付の山水。漢詩「江南の春」のごとく、水辺の村にも山あいの村にも春風が吹いているような、のどかな風情が気に入っている。杯は同じ窯元の、無邪気に遊ぶ唐子の絵。

5年前の退職時、四極エッセイに「40歳を前に再開した山歩きと、60の手習いで通い始めた書道教室は続けよう」と書いた。大きな変わりはない。書道教室は10年続いているが、道遠し。春風が吹き始めたら、大分川の土手散歩にも精を出し、久しぶりの山歩きに備えようと思っている。

懐かしかった旦野原周辺

玖珠町　梅木　一郎（大26回）

梅木 一郎 氏

自己紹介の際は、「大分大学経済学部所属」というよりは「パチンコ大学　硬式庭球部所属」というジョークで笑いを誘う、今思えば親不孝を地で行くような学生生活でした。

学生時代は、ちょうど半世紀前。中国からパンダが初めて送られたころであり、硬式庭球部の部歌？なる「好きよキャプテン」を歌っていたリリーズや南沙織が人気絶頂の時代でした。

パチンコ大学なるパチンコ店は実在してましたし、当時はデジタルではなく、釘士が毎日調整するスタイルでした。遊興時は、「〇〇台終了」とアナウンスがあり、よく出る台を毎日メモし、翌日には釘士が調整しない？五番目の台を狙う作戦でしたので、負けることはほとんど無く、両親に仕送りの迷惑はあまりかけてなかったという記憶があります。

午前中にはその仕事？を切り上げ、午後3時半からはクラブ活動といった充実？の日々でした。当然の結果として、そのツケが民法（竹村先生でしたか？）とドイ

ツ語の落第となり、2年次で早々と留年の三行り半を貰いました。

ゼミは故田原先生の交通論のゼミでしたが、一年に一度先生と旅行に行く楽しいゼミでした。ゼミの親友でもあり、同じアパートに同居の稲益君と、交通論の勉強？実践で、約一カ月間北欧～西欧周遊旅行に行ったことは、忘れられない思い出になっただけでなく、人生観を左右するかけがえのない感動の経験を得ることが出来ました。その経験で、海外旅行のすばらしさに魅せられ、現在は旅行会社を経営しており、趣味と実益を兼ねて世界各国を訪ねることが出来ました。

クラブ活動の思い出としては、校内駅伝やダンスパーティー集客でいつもサッカー部と競っていたことです。私が五年の時、初めてサッカー部を破って駅伝優勝をしたことをよく覚えています。主将でアンカーだった今村君が満面の笑みでテープを切ったのを鮮明に記憶しています。

ダンスパーティーでは、ラストダンスは一番好きな人と踊るという暗黙のルールがあり、淡い恋心を感じたものです。

一年先輩の部員に、九州学生シードされた強い先輩がいました。大島・三浦ペアです。なんと四極会の現三浦会長と大島事務局長です。ご縁を感じます。当時は厳しくご指導？頂きとても感謝しています（失礼）。

学校が休みの期間中には、田舎庵なるレストランや当時華といわれていたトキハや新規出店したダイエー大分店でのアルバイトも良い思い出です。

勉学に対しては、本当にいい加減な姿勢で、よくもまあ卒業できたなといまだに不思議でなりません。授業で覚えていることは、同郷の梅木君の代返をよく頼まれていたのですが、ある先生に「はい今のは代返だね」と見抜かれて皆の前で失笑を買ったことを覚えています。

エッセイの寄稿を機に、先日当時の住まいだった旦野原に数十年ぶりに行ってきました。半世紀前ですから、大きく様変わりしており、当時のアパートなどは見つけきれませんでした。ただ、とってもまとまりがあり仲の良かったアパートの住人の面々の顔が、次々に浮かんできて昨日のことのように思い出され、懐かしく感じました。

生活費が底をつくと、ごはんに鰹節と醤油をかけたネコ飯なるもので食いつないだこともあり、親の料理のありがたさをつくづく感じたものです。男女混合のアパートでしたので、皆でパーティーをしたり、旅行に行ったり、本当に楽しい学生生活でした。

50年前に入学した大学もはや100周年。当時の経済学部・教育学部・工学部も医学部や学科新設など大きく変革しているようです。構内の学生食堂の場所も3学部の中心に移動しており、とてもスタイリッシュになっていました。コンビニも隣接され、時代の移り変わりを感じました。

学生時代の思い出は語りつくせませんが、大分大学でいろいろな勉強でき、人格形成を育んで頂けたのではないかと、今もとても感謝しています。

現在は、母・妻・娘の４人暮らしで、趣味のゴルフや旅行やカメラなどを楽しんで、古希を前に幸せで後悔のない日々を送っています。

最後になりますが、大分大学と四極会の益々の変革とご発展、そして卒業生の方々のご健勝とご多幸を心より祈念しています。

後ろを振り向かず、前へ前へ

福岡市　待井　弘道（大27回）

待井 弘道 氏

「ｗｉｔｈコロナ」時代の支部活動もゼロからの出発である。

「四極」への投稿に、本当に不謹慎で申し訳ないと思うが、この3年間の空白は、個人的には有難かった。サラリーマン生活を終え、フリーになってからの3年間を両親の介護中心の生活に充てられたからだ。私より大変な状況で介護されている方もたくさんおられるとは思う。ただ、状況の大変さは客観的に大小はあるだろうが、直面している当人の「一杯一杯さ」は同じだと思う。

２０２０年２月に日本で初の新型コロナが発生して、まる３年が経とうとしている。５月には、分類も第５類に変更されるという。本当の「ｗｉｔｈコロナ」時代の始まりか。申し訳ないが、この３年四極会福岡支部の活動も完全に休止している。

この3年間、自分も結構「一杯一杯」だったように思う。私の感情の起伏もあり、家族にも迷惑や心配をかけた。妻も私の退職後には、旅行にも行きたかったろうに、口にする雰囲気ではなかったように思う。

それにしても、この年末年始は大変だった。12月中旬に妻が手首を骨折、正月には、母が転倒骨折、私も正月4日にコロナ罹患、1月下旬には父が転倒骨折しかもコロナ陽性、私も2回目のコロナ罹患と散々だった。

しかし、ある意味、自分の気持ちに整理がついた。できるだけ二人で自宅で暮らせるようにと思い、始めた在宅介護だったが、最終的には二人ともに転倒骨折という痛い思いをさせてしまった。初めから二人に施設に入ってもらっていればとも思う。でも精一杯やった結果だからとも思う。父母も退院してくれば施設で手の行き届いた生活がおくれると思う。父母には申し訳ないが、私も妻と時間の制約なく外出したり、旅行にも行ける。２０２３年２月は、父母にとっても私と妻にとっても、新しい暮らしのスタートだった。色々と悔やむのではなく、新たな気持ちで前を見て向かっていきたい。さあ、頑張っていこう。

同期会だより

富士山麗２ヶ所でプレー

裾野 CC（一回目）と東名 CC（二回目）

大学17回生

令和４年11月15～16日、富士山麓２ヶ所で17回生の第17回ゴルフ会を開催。男女プロ大会を開催する戦略性豊かな丘陵コースで、10ｆｔ以上の傾斜と起伏のあるグリーンに苦労しながら競った。なお、今回もコロナ下のため人数限定で実施。

大会前日は三島うなぎを味わった後、源頼朝ゆかりの三嶋大社、水辺の文学碑、富士山の伏流水が流れる桜川周辺を散策した。前夜祭は桜海老、しらす、金目鯛、富士の国ポーク、三島コロッケなど、三島満喫の創作料理たっぷりに満足しながら、いつものように盛り上がった。

前哨戦は裾野ＣＣ、富士山は臨めず、芭蕉の〝霧しぐれ富士を見ぬ日ぞ面白き〟でしたが、鹿に何度も出会う自然あふれる美しいコースでした。優勝は小田、ＮＰ賞は栗林、小田が獲得した。

本戦は東名ＣＣ、鮮やかな富士山の雄姿を臨みながら、アルバトロスやハーフ27の女子プロ記録のあるコースで競った。

優勝は鍵本君、トリプルはなく安定、ＨＤにも恵まれ連続の入賞、賞品の下関ふぐとＮＰ賞を喜んでいた。準優勝は田川君、本戦に備え体力を温存した効果で後半追い上げ、久しぶりに入賞、賞品の九州ご当地麺に満足していた。３位は柴田君、スウイング改造で臨み、少しの乱れはＨＤでカバー、賞品の伊豆乃踊子を手に次回への決意を述べていた。

以下、後半の３連続パーで追い上げた溝辺君、ベスグロやバーディなどで実力を発揮したが、ＨＤに恵まれなかった長谷川君、ＤＣ・ＮＰ賞を獲得しながら終盤３ホールで乱れ追い上げならなかった小田、久しぶりの参加で善戦し、獲得した特別賞の焼酎・流鶯を皆さんに披露した栗林君、距離あるワンパットやＮＰ賞２個と光るものがあった坂本君と、それぞれ満足の大会でした。

今大会も無事に終了し、世話人としては安堵しています。引き続き、この会を継続させることを確認して散会した。

▼出席者（敬称略）
田川俊夫、溝辺憲治、栗林保幸、柴田宏二、小田哲生、長谷川浩二、鍵本明、坂本直

（小田哲生記）

冨士本勇三氏が見事優勝

門司ゴルフ倶楽部で（令和４年 10 月 27 日）

北九州三経戦ゴルフを開催

ゴルフシーズンの到来を向かえ、令和４年10月27日（木）に、門司ゴルフ倶楽部にて、３年ぶりに北九州ゴルフ三経戦を開催いたしました。大分大７名、長崎大４名、山口大４名の総勢15名の参加となりました。

結果は、我が大分大20回生の冨士本 勇三様が見事優勝をかざりました。当日は絶好のゴルフ日和で、各組とも、和気藹々とゴルフを楽しむことができました。

【大分大の参加者】（敬称略）
冨士本勇三（大20）
久保惠一（大21）
陽　博充（大21）
吉永真一（大21）
秋田嘉憲（大22）
黒川正幸（大22）
吉田　修（大41）

【事務局として参加】（敬称略）
寺田謙次郎（大32）
北九州支部
吉田　修（大41）記

部活だより

硬式野球部

ＯＢ会が恒例の寄附

練習前に部員と一緒に記念写真（右端 辻本氏。大学のグラウンドで）

大分大学硬式野球部は、経済学部１００周年と同じく、１００年の歴史を誇っている。大分経専時代は、火の玉投手として言われた荒巻淳投手を擁して、全国制覇を成し遂げた名門でもある。

野球部ＯＢ会では、毎年、大分市のトキハ会館でＯＢ会を開催してきたが、ここ３～４年は中止している。しかし、その間、事務局長の辻本豊氏を中心に募金活動を行ってきた。

全国のＯＢの皆さんが、積極的に募金に応じていただき、ほぼ、毎年、野球部に寄附してきた。昨年もＯＢ会は出来なかったが、ＯＢの皆さんの寄附の中から15万円を野球部に寄附した。

令和４年12月９日、帆足三郎ＯＢ会会長と辻本豊事務局長が大学を訪れた。グランドでしばらく練習を見た後、辻本氏の司会で贈呈式を行った。

主将の山根壮一郎君（３年・広島国泰寺高校）は所用で出席できなかったが、副キャプテンの河野涼太君（３年・愛知県立昭和高校）ら野球部員が集まった。

帆足会長が河野副主将に金一封を手渡した。そのあと、記念写真を撮って終了。写真はマネージャーの吉武栞さん（３年・福岡県立京都高校）が撮影。

現在、野球部員は30人。春のリーグ戦で一部昇格を目指して頑張っている。是非、応援に駆けつけてやってください。

旦野原キャンパスのジオラマ

名古屋の信原氏が贈呈

アーカイブルームに展示

贈呈式を終えて記念写真…右から三浦洋一四極会長、
高見博之経済学部長、信原眞治氏ご夫妻（アーカイブルームで）

１００周年記念事業の一つであるアーカイブルームに大分大学旦野原キャンパスのジオラマが設置されました。

２０００分の１の精緻な模型で経済学部創立１００周年に併せて贈呈されました。名古屋支部の信原眞治氏（大21）より高見経済学部長に、三浦会長同席のもと目録が渡されました。

四極文芸

短歌

山邊　幹生（大阪府枚方市・大16）

五十九の　赤カーネーションに　白一つ
　添えて還暦　妻と迎えり
妻が煮て　吾れが握ねての　味噌づくり
　今年は誰に　外は雪降る
吾が父と　妻の母君　九十七
　我ら生く年　ここに定まり

次森　久雄（大分市・大23）

船底を打ち波しぶき立つ早瀬
　思わず竦む保津川下り
船頭が竿につく岩に穴の跡
　保津川下り四世紀経て
正面の愛宕山はやがて背に
　蛇行の保津川下る船旅

川柳

糸永　文雄（別府市・大2）

みとせ越え家族と祝うダイヤ婚
侘助が椿七種の花一番
コロナ禍で友の顔さえ忘れ勝ち

城元　保昭（大分市・大7）

やり直しきかぬ人生今を生き
八十の手習い脳が若返る
原料高かなりの値上げ目白押し

本多　廣（大分市・大12）

小春日和縁で筆執る一行詩
過疎の里往時を偲ぶ門構え
ゴルバチョフ草場のかげで泣いている

俳句

和田こうせい（康生・大分市・大2）

鉄路あとのこる枕木石蕗の花
スケッチに彩り添へし木守柿
大阿蘇の風が撫でゆく草の花

利光　征四郎（大阪市・大11）

小春日の移ろひ追ふてひもすがら
過ぎ行きし日々朧なり年の暮れ
初日疾く山端離るる目覚めかな

湯浅　喬（大阪市・大11）

花芙蓉に遠き記憶の里の夜
曼珠沙華ひともとますぐ雨の中
冬ざれや庭の蹲踞涸れたまま

野井　英雄（伊予市・大14）

知らぬ間に雑草の生え五月来ぬ
堰の音をいつも聴きつつ稲稔る
取り立ての地元産物夏料理

芋岡　勝一（臼杵市・大15）

名月につつまれ城下平らなる
藁塚のぽつんと一つ峡の里
冬日燦燦上棟式の声高し

小林　康祐（さいたま市・大16）

ひとひらの葉の残りたる枯木かな
枯野行く電車の外の月明り
大晦日忘れたき年一人酒

山邊　幹生（大阪府枚方市・大16）

病む妻へ　願いは一つ　初みくじ
妻と娘が　菖蒲と映る　今朝の池
妻と添い　温み分け合う　寒の床

坂井　進（広島市・大18）

引っ越しの子供が一人石鹸玉
旧き友人情話に春火鉢
梅の香を添へて短き便りあり

野田　初男（広島市・大19）

稲車家路はすでに宵のうち
わたりゆく朱の回廊の淑気かな
結ばれて立つ白菜の畑かな

さぶちゃんの突撃インタビュー ―㉗―

株式会社テレビ大分
代表取締役社長　池邉　強　氏（大29）

「楽しい」と思える会社に

今回は、テレビ大分の池邉社長に登場いただきました。マスコミ界からは初めてです。

1月27日の午後、テレビ大分本社で、直接インタビューしました。社長室の三浦壽生さん（大36）が同席しました。

①ご出身は？

大分市で生まれ、生後すぐに大野町（豊後大野市）の「沈堕の滝」近くに引っ越しました。父親が九州電力の技術関係の仕事をしていて、社宅に住んでいました。

池邉　強（いけべ　つよし）氏のプロフィール

1957年	大分市生まれ
1981年	大分大学経済学部経営学科卒業
	㈱テレビ大分に入社
2007年	報道部長
2014年	取締役報道制作局長
2017年	常務取締役　7月より経営本部長兼経営戦略局長
2020年	専務取締役
2021年	代表取締役社長　現在に至る

②小学校時代は転校が多かったとか。

はい。大分市の金池小学校に入学して、2年生の時には春日町小学校へ1回目の転校。4年生は日田市の月隈小学校（当時）で、卒業は同じ日田市内の三芳小学校でした。社宅が変わったからです。三芳小は剣道が強くて、私も夢中で竹刀を振っていました。

③転校で大変だったのでは。

大変だったということはなかったですねー。社宅には同じ九電の子供たちがいて、すぐに仲良くなりました。小学校の時は学級委員長もやりましたよ。

④中学・高校時代は？

・中学は附属中に入学。おばあちゃんの家が大分市にあって、そこから通っていました。子供のころから好きだった野球部に入りました。キャッチャーでした。ＴＯＳに野球部があるのですが、ピッチャーをやっていました。42～43歳頃まで楽しみました。（社長室の三浦さんによると、池邉さんはコントロールがよかったそうです。）

・中学時代の同期に、ジェイリースの中島拓社長兼会長、東九州設計工務の仲摩和雄社長（大分商工会議所副会頭）、東九州石油の曽我泰直社長がいました。おかげで、今でも仕事のことなど大変お世話になっています。

・高校は大分舞鶴でした。応援団に所属していて、野球やラグビーの試合の応援に駆けつけて、声を張り上げていました。高校2年の時にラグビー部が全国優勝しました。決勝の相手は京都の花園高校でした。1年の時は東京の目黒高校に敗れ準優勝でした。

・また、同期生のことで恐縮ですが、政治家になった人が3人いました。吉良州司衆議院議員、参議院議員から今度、大分市長選に出馬した足立信也氏、元参議院議員の礒崎陽輔氏。九州電力の池辺和弘社長も同期でした。舞鶴高校の23回生は優秀な人材が多かったですね。私たちは、合同選抜の1回目で、同じ年の佐藤樹一郎前大分市長は大分雄城台高校へ行きました。

⑤大学時代はどうでしたか。

・大分市内の実家から通学していました。時間が結構あったので、アルバイトに精を出しました。大型スーパーの食品売り場で補充作業や翌日の特売品の陳列作業などしました。

また、駐車場の出庫作業もやりました。家庭教師はいい収入になりましたね。

・御手洗丈夫教授（経営工学、テニス部顧問）の家にはよく

行きましたねー。夜、一緒に飲んで、様々な薫陶を受けました。

・大学4年の7月に菊口邦弘君（大分カード社長）と就活の前に、どこかに旅行に行こうと意気投合し、40日間かけてヨーロッパを回りました。格安が売りのツアーで、南回りのインド航空を利用、行き帰りの便だけ団体で、行きはロンドン着、帰りはパリ集合というものでした。

2人でイギリスを起点にオランダ、ドイツ、オーストリア、イタリア、スイス、フランスと列車で移動、寝袋や駅前の案内所で格安のホテルを探し、ユースホステルなど行きあたりばったりで寝泊まりして、ホテルで洗濯したりしながらの旅でした。

英・オランダ・独・オーストリア・伊・スイス・仏
40日間でヨーロッパ一周

アルプス名峰アイガーを前に（スイスにて）

イタリアでは、わかっていたけれどもカメラを盗まれたり、ぼったくりバーみたいなところに連れていかれ、ひどい目にあったりと、今から考えれば怖いもの知らずの学生時代だからこそ、出来たのかなあと思います。

⑥ＴＯＳを選んだ理由は？

①おふくろが薦めた（地元に就職させたかったから?）

②銀行より出社時間が遅くボーナスがよかった（笑）

③ノルマがなさそうだった（笑）

④家から近かった

などの理由で、実は放送業界のことは何も知りませんでした。

⑦報道部一筋だったそうですね。

入社後4年で報道部に配属となり、事件事故や災害の取材、スポーツ取材に選挙の取材と多くの経験が得られ、今も自分のベースになっています。他社との競争もあって、先輩の指導は厳しかったが、やがて後輩の育成、そして、ニュース全体の編集や構成に携わりました。きつかったけれど、大きく成長できたと思っています。

⑧報道部時代の一番の思い出というか、印象に残っている出来事がありましたらお願いします。

東日本大震災です。当時、私は報道部長でした。数年間にわたって、東北の局へ部員を派遣しました。私たちも復興の手助けを行うという使命感を持ちました。

⑨ゴルフが大変上手だと伺っています。

いやあー、もう昔の話ですよ。40代の頃はハンディーが4・8でした。ベストスコアは69です。今は、仕事上のお付き合いなどで、月に4～5回ラウンドしています。スコアは80台です。他業種の方々と様々な話をしながら長い時間を共有できるのが楽しいですねー。

⑩テレビ界も大変な時代を迎えていますが、ご苦労も多いと思います。

頼みの広告費が大変厳しい状況です。地上波のテレビ離れもあって、変革しなければ置いて行かれる。しかし、変革するには大きなエネルギーを要します。地域愛と地域貢献をビジネスの根底に据え、放送収入だけに頼らない「新しいＴＯＳ創り」に挑戦しようということで頑張っています。

⑪経済学部は１００周年を終了して、次の１００年へ向かって再びスタートしました。１００周年の思いを聞かせてください。

私は大分大学経済学部で学んでよかったとつくづく感じます。大分で仕事をするのに、経済学部を卒業したことで、これほど人のつながりに恵まれたことはありません。大変感謝しています。経済学部のこれからの１００年に大いに期待しています。

⑫最後に学生へのアドバイスをお願いします。

会社が成長するには、変化に変化できなければなりません。まさに今の放送業界がそうです。

変革には若い力が不可欠です。会社を若い人にとって働きやすい会社に変化させていかねばと思っています。是非後輩の学生たちに力を貸して欲しいと願っております。

経済学部２７１人が卒業

三浦会長が四極会長賞を授与

令和５年３月23日（木）、大分大学卒業式がｉｉｃｈｉｋｏグランシアタで開催され、経済学部からは２７１人が卒業し、前期博士課程を４人、後期博士課程を１人が修了しました。

全体の式終了後、経済学部は隣接する大分オアシスタワーホテルの５階孔雀の間に会場を移し、卒業記念式典を開催しました。

式典の最初に来賓として出席した三浦洋一四極会会長と足立一馬理事の紹介があり、続いて、高見経済学部長の挨拶の中で、昨年、経済学部が１００周年を迎えた旨、改めて卒業生に紹介されました。

学生表彰では、学長賞、学部長賞に続き、三浦会長が、財務諸表論と簿記論の税理士試験に合格した鵜崎ゼミの泉　勇輝さん、「イノベーションの実践と課題解決」のテーマにより複数のプロジェクト活動を行った12名の渡邊ゼミ生に四極会長賞を授与いたしました。

表彰式の後、学生はゼミごとに集まり、それぞれゼミの先生から卒業証書を受け取り、新たな出発にお互いエールを送るとともに、友との別れを惜しんでいました。

泉 勇輝さんに四極会長賞を授与する
三浦会長（左）

城戸ゼミの皆さん

是永さんからビデオレター

渡邊ゼミは地域の課題解決を大きな目的として掲げ、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。その取り組みの一つとして、２０１９年度から２０２１年度までの３年間、大分大学経済学部１００周年記念プレイベントと題して「大分の歌音楽祭」を四極会全面協力のもと渡邊ゼミが企画・運営をさせていただきました。このようなイベントを一から創り上げ最後までやり遂げるという貴重な経験をさせて頂けたことを大変嬉しく思います。

また、渡邊ゼミ３期生の卒業に際し四極会事務局是永様よりビデオレターを頂きました。その中で、これからの長い社会人生活を送る上で心の拠り所となる言葉を個々人で見つけること。その例として、是永様の拠り所となる言葉「良い加減」という今後の私たちの人生の様々な場面において活用することのできる素敵なお言葉を頂戴しました。

最後に、これまでお世話になった皆様方、ゼミ活動へのご協力、学生へご指導頂いた事心より感謝申し上げます。

宮町ゼミ 12 人の卒業生

渡邊ゼミ 第３期生が卒業 おめでとう会

経済学部の渡邊ゼミ第３期生プレ「卒業おめでとう会」を２月３日黒土始記念講堂にて実施しました。本企画は、第３期生が渡邊ゼミに所属した当初に親睦を深めるために行っていたゲームを祝卒業編と題して復活させ実施。また、今回の企画にご協力していただいた皆様から頂戴したビデオレターの上映、皆様からのご寄付（無理を言ってすみませんでした）で準備させていただいた「豪華！抽選会」、最後に、３年生から４年生へ、ゼミ生から先生へ感謝を込めての記念品の贈呈などを行いました。皆様のおかげで盛況のうちに無事終えることができました。

今回の企画を通じて、「渡邊ゼミが、企業、行政、団体、四極会など大学内外のたくさんの大人の方々に支えられてきたこと。それにより多くの経験と楽しみと学びを私たちが享受できていたこと」を再認識することができました。今後もこの思いを忘れぬよう先輩から後輩たちへと大切に受け継いでいきます。

２月３日のゼミを最後に、第３期生たちは大学での学びを終え、次年度より新たなステージで、それぞれの地で、新生活を送ることとなります。これから先楽しいことばかりではないと思いますが、皆様からいただいたお言葉や励ましなどを胸に社会人として成長し続けていきます。

最後に、これまでのゼミ活動において、私たち第３期生に対する多大なるご支援・ご協力いただきました皆様に心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

（渡邊ゼミ第３期生 佐保太晟記）

黒土始記念講堂での集合写真。
合同ゼミでお世話になった仲本大輔先生もかけつけてくれました

夢に向かって1347名が入学

①健康②目標③出会いを大切に

令和５年４月４日、令和５年度大分大学入学式がホルトホール大分で挙行されました。今年は２部構成で行われ、午前の部は経済学部・医学部・福祉健康科学部。午後の部は教育学部・理工学部の構成で、学部入学生１０８５名、編入生29名、大学院生２３３名の総合計１３４７名が晴れて大分大学生となりました。今年は４年ぶりに保護者の参加も認められ、親子で記念写真を撮る姿はとても微笑ましいものでした。

式は開式の辞・国歌斉唱・学歌斉唱・入学許可・入学生宣誓と続き、入学生を代表して経済学部の安達莉央奈さんが「学則を守り、広く知識を求め、学生の本分を尽くします」と力強く宣誓を行いました。

続いて北野学長より「新しく大学生活を迎えるにあたり次の３つの言葉を贈りたい。まず第一は健康であること。気力・体力・心身共に健康であることが大事。特に喫煙の誘惑に負けないように。次に明確な目標を持って大学生活を送ってほしい。最後に多くの人との出会いを大切にし、大いに語りあってほしい」と激励の言葉を述べ、最後に「夢に向かって飛び立つための強靭な翼を作ってほしい」と告示を結ばれました。最後に各学部長が紹介され、厳かな中で閉式となりました。

今年は J：COM ホルトホール大分で開催

一般財団法人四極会理事・監事　担当職務

（令和5年4月1日現在）

役職名	氏　名	回期	担当職務（変更後）	担当支部
会　長	三浦　洋一	大24	統括	全支部
名誉会長	相良　浩	大12	会長代行	県庁支部
相談役	山口　勇	大10	会長補佐	
相談役	髙井　道晴	大21	会長補佐	
副会長	奥川　隆生	大23	東京四極会理事長	東京・名古屋
副会長	和田　安生	大24	関西四極会会長	関西・中四国
副会長	待井　弘道	大27	福岡支部長	福岡・九州
副会長	髙野　浩子	大34	大分支部長・桃優会会長	大分
常務理事（非常勤）	渡邊　博子	大36	大学支部長・桃優会（副）	大学支部
理事	野々下　俊昭	大12	財務担当（正）	佐伯支部
理事	帆足　三郎	大13	会報・HP担当（正）	大分合同新聞社
理事	足立　一馬	大19	大学関係強化担当	大分市役所
理事	玉井　鉄之	大25	大分支部組織強化担当（正）	豊和銀行
理事	菊口　邦弘	大29	桃優会顧問・職域強化担当	大分銀行
監事	板橋　紘平	大15	県外支部強化担当（アドバイザー）	北九州支部
監事	木本　英光	大25	大学関係強化担当（正）	大学支部
監事	佐々木　信之	大33		
顧問	石川　公一	大13		
特命	橋本　啓	大18	大分市内職場（除：職域支部）強化担当	大分支部（会員増強）
特命	衛藤　秀樹	大28	大分市内職場（除：職域支部）強化担当	大分支部（会員増強）
特命	山田　昌弘	大43	会報・HP担当（副）	
事務局長	大島　英明	大24	全域支部組織強化担当	本部事務局統括
会長特別補佐	柴田　宏二	大17	県内支部組織強化担当	会長・事務局長補佐
事務局次長	阿部通正	大26	大分支部組織強化担当（副）	大分支部
事務局主任	大園　広子	大34	Zoom環境	桃優会補佐

四極会理事などの担当職務が決まる

四極会の三浦会長は、一般財団法人四極会の理事・監事などの担当職務を上記の表のように決めた。

これまでも、それぞれの担当は決められていたが、三浦新体制になって、見直されたもの。

会長代行には、相良浩名誉会長、会長補佐に山口勇相談役と髙井道晴相談役が担当することになった。

副会長に、大石哲史さんに代わって関西四極会会長に決まった和田安生氏（大24）が担当することになった。

山田昌弘さんが決意

51歳になりましたが、今回の職務分担では一番若いと思います。

会報四極の編集担当として、6、7年加わっています。

帆足編集長と一緒に会報作りに携わってきましたが、まだまだ独り立ちは無理です。仕事をしながらですので、思うようにいきません。少しづつ勉強して、お役に立てるように頑張る覚悟です。

令和5年度（2023年度）　四極会寄附講義　「会社研究」実施予定表

開講時限：前期／水曜日３限（13時10分～14時40分）講義室　202号教室（予定）

回	講義日	企業・団体名	役職	講師	講義題目	備考
1	4月12日	飲食店（まほうのおうち）	オーナー	三浦　里芳	学生時代にしかできないこと	
2	4月19日	元パナソニック株式会社　電材営業本部	中四国営業部愛媛県担当課長	藤野　敬三	パナソニック・松下幸之助の歩んだ道＆家庭用エアコンの企業間競争について	
3	4月26日	株式会社 minsora	管理部所属	福島　千尋	（仮）大分県の宇宙関連ビジネスの現状と将来性	
4	5月10日	大分信用金庫	理事長	木村　浩樹	（仮）つなぐ力・おおいたづくり	
5	5月17日	有限会社ＳＳプランニング	代表取締役	佐村　信哉	小売の歴史とダイレクトマーケティング	（元）ニッセン代表取締役（現）ファーマフーズ取締役
6	5月24日	丸東産業株式会社	社外取締役	泉　博二	社会に出て，何をするか？	（元）神戸製鋼所常務執行役員
7	5月31日	オンラインサロン「働き方ラボ」	代表	西久保　潤	未定	
8	6月7日	税理士法人アール	業務課主任	赤峯　雅代	地域を支える税理士法人の仕事	
9	6月14日	大分県教育委員会	元民間人校長	山﨑　敦夫	（仮）禍福は糾える縄の如し	
10	6月21日	有限会社大分ふたば	代表取締役	吉田　茂	社会人として大切なことは全て保育で学べる―あなたが生涯、社会人として生き抜く処方箋―	
11	6月28日	特定非営利活動法人　三河龍馬会	理事長	信原　玲子	龍馬の行動哲学	
12	7月5日			未定		
13	7月12日	株式会社大分銀行	取締役	平川　浩行	グローバル資本主義の進展と日本	
14	7月19日			未定		
15	7月26日	大分ベンチャーキャピタル株式会社	代表取締役社長	渡邉　剛之	（仮）スタートアップの現状と展望	
15		一般財団法人四極会	会長	三浦　洋一	大分大学経済学部同窓会「四極会」について	
16	期末試験					

表紙のことば

宇佐神宮・鎮疫祭「蘭陵王」

大分市　園田　健治（大14）

大分県の北部に位置する宇佐神宮は、全国に4万社あまりある八幡様の総本宮で、年間19回伝統的な祭典が行われる。毎年2月13日には、その境内にある末社・八坂神社で疫病や災いを払い清める神事として「鎮疫祭」が催される。

神職8人と白装束の従者14人が3・5メートルの竹に五色の紙をつけた6本の「五色幣」を神社の鳥居越しに投げ入れ、集まった人々は家内安全や無病息災にご利益があるとされる幣の紙片などを奪い合う様は、見ている人々を幸せな気持ちにさせてくれる。

一方、同神社は神仏習合の象徴だった弥勒寺の守護神で、そのほかには、神職による舞楽「蘭陵王（らんりょうおう）」の他、真言宗僧侶の読教・火渡り・護摩炊きでは、沢山の人々が火渡りを体験する等、神教と仏教の入り混じった珍しい祭典である。興味のある方は、度訪ねてみてはいかがでしょうか。

経済学部へ書籍を寄贈

佐藤行弘氏（大17）より経済学部へ書籍の寄贈がありました。佐藤氏は三菱電機の代表取締役副社長、三菱ＵＦＪ銀行取締役などを歴任し、その間、経産省企業財務委員会委員長・金融庁企業会計審議会委員・総務省独立行政法人企業会計研究会・ＡＳＢＪ（企業会計基準委員会）のアドバイザーなどの要職委員を勤め、多くの官庁の幹部や大学教授、企業幹部、会計士、弁護士の皆さんと交流があり、広範囲の交流の中で書籍が増加した。

このたび、佐藤氏から「大学で有効活用してほしい」と申し出があった。専門書、経済の見方、企業研究、財務会計の見方など多彩な書籍がある。その数90冊を超える。

経済学部の高見経済学部長は「大切に扱わせていただきます」と、お礼の言葉を述べられた。

物故者

◆教　官

元学部長　大野公義（R5・2・10）

◆高　商

17　田中　正（R4・5・—）

◆経　専

23　竹内　憲一（R5・1・5）
24　甲斐　義彦（R4・9・3）
25　大重　辰雄（R4・11・21）
25　久保田泰雄（R2・3・—）
26　吉良　定喜（R4・4・30）
26　志賀　清己（R4・1・3）
26　二宮　憲夫（R4・11・8）

◆大　学

2　秋好　哲幸（R5・1・27）
2　局　淑亘（R4・11・22）
2　山本　文義（R5・2・13）
3　安見　和慶（R4・7・5）
3　岩田泰次郎（R3・4・—）
3　清瀬　善三（R—・—・—）
3　田中　五郎（R5・1・15）
4　緒方　正彦（R4・4・28）
5　深井　義雄（R4・1・10）
5　吉田　仁敬（R4・12・23）
6　太田　雅拡（R4・9・12）
6　高橋　哲生（R4・9・1）
6　牧　冬彦（R4・10・27）
7　國米　秀信（R4・10・—）
7　中島　睦博（R4・1・—）
10　江里口征雄（R4・11・26）
10　神田　昌治（R4・10・28）
11　佐藤　克巳（R4・11・22）
11　田中　雅雄（R4・11・8）
12　瀧田　詮幸（R4・10・5）
14　橋内　厚（R5・1・—）
14　羽田野弐男（R5・1・—）
17　姫野　易之（R4・11・20）
18　大森　良雄（R4・4・18）
20　工藤　謙二（R4・12・5）
20　疋田　博史（R2・3・29）
21　小泉　守（R4・11・18）
22　古庄　哲郎（R4・10・1）
23　進来　英治（R4・11・22）
27　佐藤　博之（R4・8・21）
29　森永　英隆（R5・2・7）

編集後記

私が会報「四極」の編集長を引き受けたのが、平成19年でした。大分合同新聞社の先輩、平子信彦氏（経専26・故人）が担当していて、そのあとを引き継ぎました。当時、四極会会長だった田中康生氏（経専26・故人）からも強く要請されました。

それから17年間、毎年2回（4月と10月）の発行を積み重ねて来ました。編集長になって3年後、何か新しいことにチャレンジしなければとの強い思いから、「さぶちゃんの突撃インタビュー」を始めました。

四極会の先輩、同輩、後輩の皆さんに直接インタビューなどして、記事にまとめる、というものです。

これまで26人を取り上げました。第一回は声楽家の工藤智昭氏（大9）。第2回は作家の図子英雄氏（大3・故人）。

そして、3回目が屋根の版画家の寺司勝次郎氏（経専24・故人）にお願いしました。大分市内の自宅にまで行って、直接お話を伺ったことが、きのうのことのように思い出されます。この時、寺司さんは86歳でした。ハツラツとしていて、眼力が鋭かったことを覚えています。確か90歳でお亡くなりになりました。

そのあと大学の学長や大企業の社長、自衛隊の校長先生、尺八の大家、映像作家、母校経済学部の教授、山岳会東九州支部長、四極会のお世話をしている人…など、いろんなジャンルから登場していただきました。

私が感じるのは「大分大学経済学部はすごい」のひと言です。経済学部出身者でありながら、芸術家の道に進んだ人が多くいることです。

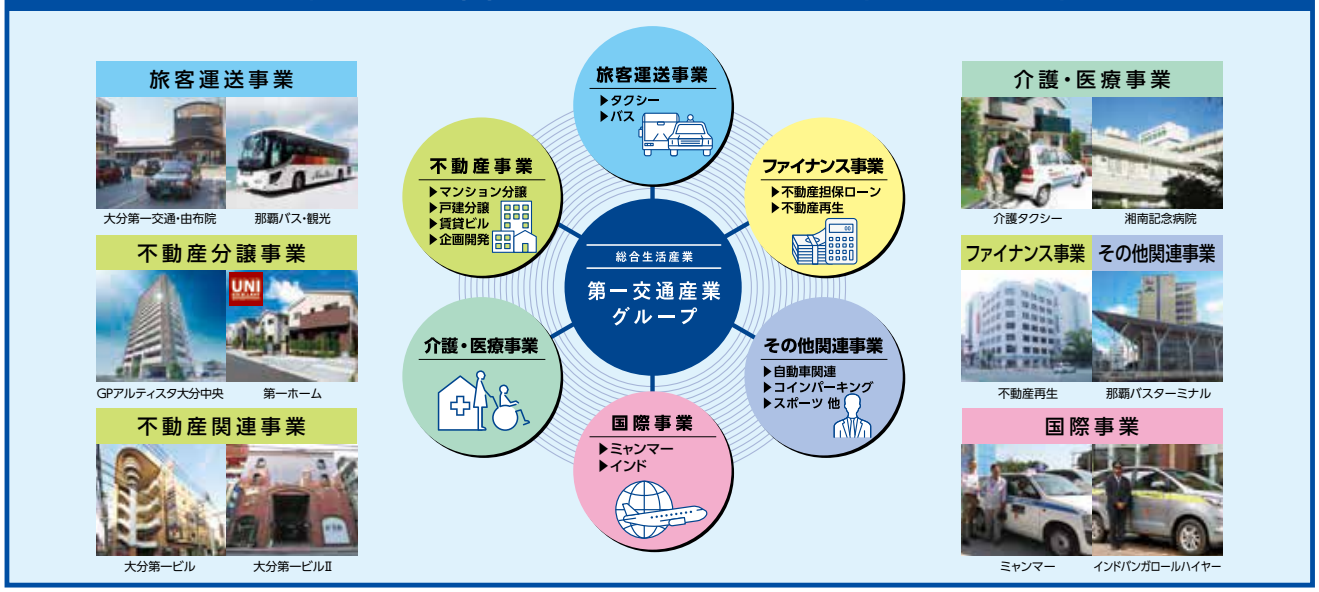
自遊展を開催して8年になりますが、絵画や書道、川柳・俳句・短歌、写真など目を見張るものがいっぱい出品されます。大分市民の皆さんもビックリしています。

私は今年82歳になります。おかげで元気に毎日を送っています。四極の編集担当も、そろそろ終わりにしなくてはと思いながらも四極会の新しい会長に三浦洋一氏が就任しました。三浦さんの活躍の模様をもう少し掲載しなければならないな、と思い頑張ってみようと思っています。

宜しくお願いします。

編集担当理事　帆足三郎（大13）

北海道から沖縄まで全国をネットワークする第一交通産業グループ



一般財団法人 **第一交通産業 記念館**　〒802-0042 北九州市小倉北区足立２丁目７-17

すべての道は、人に通ず。

人を見つめ、地域社会を見つめ、時代を見つめながら、
明日の快適生活環境を創造してきた「第一交通産業」の歴史と歩み、
そして 創業者黒土 始の経営理念をご紹介しています。
ぜひ一度ご来館下さい。

ご来館される皆様へ

発熱（37.5℃を目安）又は風邪の症状が有る場合は来館をお控えください。
入館時はマスク着用をお願い致します。 **緊急事態宣言中は閉館となります**

●開館時間　午前 10 時 ～ 午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで / 年中無休）
※臨時休館日があります。また開館時間が変更になる場合がございます。ご了承ください。

●交　　通　・バス：小倉駅バスセンターから西鉄バス「霧丘三丁目行き」　小倉駅入口バス停から西鉄バス「霧丘三丁目行き」
27 番、28 番に乗車、「妙見下バス停」で下車。徒歩約7分。　93 番に乗車、「妙見橋バス停」で下車。徒歩約4分。
・車：北九州都市高速「足立北ランプ」又は「富野ランプ」から約 5 分。(記念館には駐車場完備)

入館無料

通常はセキュリティーシャッターが下りていますので、インターホンを押してください。

●記念館周辺地図

【ご見学のお問合せは】
第一交通産業株式会社　総務部 TEL093-511-8811㈹

第一交通産業㈱　相談役　**黒土 始**（高商18回）

総合生活産業
第一交通産業グループ DAIICHI
〒802-8515 北九州市小倉北区馬借2丁目6番8号